

「令和元年度 杉並区立図書館運営状況報告書」について

「令和元年度 杉並区立図書館運営状況報告書」について、以下のとおり取りまとめたので、報告する。

なお、今年度は、各年度の運営状況評価に加えて、「杉並区立図書館サービス基本方針」（以下「サービス基本方針」という。）に基づき設定された10項目の評価項目のうち、3項目を重点項目と定め、サービス基本方針策定後の評価を行った。

1 運営状況評価の実施概要

(1) 目的

図書館法及び杉並区立図書館協議会規則等に基づき、「サービス基本方針」及び各図書館の事業計画に示された目標等の達成度や成果を踏まえた評価を適切に行い、図書館の運営・サービスの改善・充実に効果的につなげることを目的とする。

(2) 対象

- ①杉並区立図書館13館の平成30年度事業（単年度評価）
- ②重点項目「資料の充実」「ボランティアとの協働」「他機関との連携」のサービス基本方針策定（平成25年3月）後の評価

※重点項目について

令和4年度にサービス基本方針の見直しを予定していることから、今年度から3年をかけて、サービス基本方針に基づき設定された10項目の評価項目のうち、毎年3～4項目を重点項目として取り上げ、サービス基本方針策定後の評価を実施することとし、次期サービス基本方針の策定に活用することを目指す。

<評価する10項目>

太字表示は今年度重点項目とした項目

区 分		項 目
3 つ の 視 点	学びの場	1. 資料の充実
		2. 誰もが利用しやすい図書館に
	知の共同体	3. レファレンス（調べもの相談）の充実
		4. 講座・講演会・行事の開催
	楽しい交流空間	5. ボランティアとの協働
		6. 快適な読書空間の整備
		7. 子ども読書活動の推進
取組推進のための基盤整備	8. 他機関との連携	
	9. 人材育成・研修計画	
	10. 広報・情報発信	

(3) 実施方法

①平成 30 年度の評価

サービス基本方針を踏まえ、平成 30 年度の杉並区立図書館の取組状況について、各館の自己評価、実績数値及び利用者満足度調査等に基づき、「評価対象年度の総括的評価」及び「評価項目（10 項目）の評価」を行った。

②重点項目の評価

重点項目とした 3 項目について、「図書館サービス基本方針策定後の主な成果」「課題と今後の取組の方向性」という視点からサービス基本方針策定後の評価を実施した。

③図書館協議会の意見

杉並区立図書館協議会規則第 2 条に基づき、杉並区立図書館協議会（以下、「図書館協議会」という。）が、中央図書館が作成した運営状況報告書の内容を評価し、意見を付した。

2 評価の内容

別添「主なポイント」及び「報告書」のとおり

3 図書館協議会からの意見について

図書館協議会から出された意見のうち、評価方法等については、図書館長会で検討したうえ、来年度の評価に生かせるよう、3 月末までに評価方法の方針を固めることとする。また、重点項目に関する意見については、中央図書館内に検討部会を立ち上げ、今回行った評価と併せ、次期サービス基本方針策定に向けて検討を行う。

4 今後のスケジュール（予定）

令和 2 年 2 月 区公式ホームページ等により公表

令和元年度 杉並区立図書館運営状況報告書の主なポイント

1 杉並区立図書館の運営状況評価の実施について (P1)

- 平成 24 年度末に「杉並区立図書館サービス基本方針」を策定し「学びの場」「知の共同体」「楽しい交流空間」の 3 つの視点と取組の方向を踏まえて、図書館サービスの提供に努めてきた。
- 中央図書館の大規模改修や、業務委託館 3 館の指定管理者制度への移行、永福図書館の移転改築など区立図書館を巡る情勢の変化、令和 4 年度のサービス基本方針の見直しに併せて、平成 30 年度の評価を行うとともに、サービス基本方針に基づき設定された 10 項目（①資料の充実、②誰もが利用しやすい図書館に、③レファレンス（調べもの相談）の充実、④講座・講演会・行事の開催、⑤ボランティアとの協働、⑥快適な読書空間の整備、⑦子ども読書活動の推進、⑧他機関との連携、⑨人材育成・研修計画、⑩広報・情報発信）の評価項目の中から毎年 3～4 項目を重点項目として 3 年をかけて計画的に振り返りの評価を実施することとした。
- 従来の評価では、図書館協議会が、中央図書館が行うべき細かな点についても関与していたが、今回から、中央図書館自らが点検・評価した運営状況報告書の内容について、図書館協議会が意見を付す形に変更した。

2 平成 30 年度の評価 (P2～6)

○対象

杉並区立図書館 13 館の平成 30 年度事業

運営形態	図書館名
一部業務委託館	中央
直 営 館	柿木、高円寺、西荻（3 館）
指 定 管 理 館	永福、宮前、成田、阿佐谷、高井戸、方南（6 館）
業 務 委 託 館	南荻窪、下井草、今川（3 館）

- ※一部業務委託館 区が職員を配置し運営しているが、民間事業者に窓口業務を委託している館
- ※直営館 区が職員を配置し、直接運営している館
- ※指定管理館 民間事業者である指定管理者が、窓口業務、施設の維持管理を行う館
- ※業務委託館 民間事業者に窓口業務を委託している館

- 平成 30 年度の杉並区立図書館の取組状況について、各館の評価表及び実績数値、利用者満足度調査等に基づき、中央図書館が区立図書館全体について「評価対象年度の総括的評価」及び「評価項目(10 項目)の評価」を行った。
- 「評価項目(10 項目)の評価」では、項目ごとに全館の評価を行った。
 - ・蔵書の状況については、全館の蔵書冊数が約 216 万冊(前年比 96.5%)となった。人口が増え利用登録者数も増加しているが、年間貸出冊数は区民 1 人あたり 7.65 冊(前年比 100.4%)を保つことができた。財政状況が厳しい中でも選書や分担収集により質の高い蔵書構築を進めていく必要がある。
 - ・図書館活動の実績ではデータベース利用回数が閲覧館の拡大等により、1,007 回増(前年比 125.6%)となっている。印刷サービスや利用講座の開催等利便性の向上と利用啓発に努めていきたい。
 - ・経費(コスト)については、利用者 1 人あたり経費(コスト)が 610.5 円(前年比

93.6%) となって低下しているのは、入館者数が、サービス基本方針を定めた平成 25 年度 (2,769,640 人) 以降、最高の 2,835,617 人となったことも寄与している。

- ・利用者満足度調査に基づく評価については、「職員の対応」や「書架・資料の状態」も、前年に引き続き高い満足度の評価となっており、他の項目も昨年と同じ傾向を示している。
- ・平成 30 年度は翌年に大規模改修を控えた中央図書館の基本・実施設計や住民説明会の実施、休館に伴う仮設事務所及び荻窪臨時図書窓口の開設準備並びに永福図書館移転改築のための実施設計及び住民説明会の実施など。本来業務に加え、次年度に備えるための一年となったが、閉館を伴う施設改修工事などもなく、概ね順調な運営が行われたものと評価した。

3 重点項目の評価 (P7~12)

○今回は「資料の充実」「ボランティアとの協働」「他機関との連携」の3項目を重点項目とし、評価にあたっては地域館長の意見も聴取した上で、「図書館サービス基本方針策定後の主な成果」「課題と今後の取組の方向性」等について評価した。

・資料の充実 (P7~8)

蔵書規模の適正化により、蔵書冊数は「サービス基本方針」を策定した平成 24 年度の 239 万冊から平成 30 年度末の 216 万冊に減少。一方で、資料費が削減されたことにより購入冊数も年々減少しているため、区立図書館として資料費の確保に努め、開架部分の蔵書の新鮮度を維持できるよう今後も進めていく。

・ボランティアとの協働 (P9~10)

障害者サービス、児童サービスなどに関わるボランティアをはじめ、多様なボランティアとの協働を進めているが、連携強化のために情報交換会を開催したり、ボランティアからの意見を事業内容に活かしたりしている。しかし、活動内容は館によって違いがあるため、情報交換の場を作り、課題の整理や人材活用策などを話し合い、新たな方向性を検討する。

・他機関との連携 (P10~12)

学校や近隣施設、区内大学図書館などとの連携を進めているが、今まで連携が少なかった成人や高齢者を対象とした関係機関への働きかけなどを積極的に行い、全世代に渡るサービスを充実していく。

4 今後の取組の方向性 (P12)

○これまでは、区立図書館を巡る基本的な条件に大きな変化がない中で、前年度の実績等を評価・分析し、改善につなげてきていた。今後は、運営形態や図書館の物理的条件のほか、事業者変更の可能性まで踏まえれば、従来どおりの前年実績等を評価する手法では適切な対応ができないため、新たな評価手法が求められている。

○平成 24 年度末に策定したサービス基本方針の見直しに際し、今日までの状況を改めて評価・分析するとともに新たなビジョンを描いていかなければならない。今回の図書館評価から、評価手法を変更したが、評価の適切なあり方について引き続き調査・研究を進め、今後の改善へとつなげていく。

令和元年度
杉並区立図書館運営状況報告書

令和2年1月

杉 並 区

目 次

I 杉並区立図書館の運営状況評価の実施について

はじめに 1

II 平成30年度の評価

1 評価の目的 2

2 対象 2

3 実施方法 2

4 評価対象年度の総括的評価 2

5 評価項目（10項目）の評価 4

III 重点項目の評価

1 重点項目の評価 7

（1）資料の充実 7

（2）ボランティアとの協働 9

（3）他機関との連携 10

IV 今後の方向性について 12

V 図書館協議会の意見 13

＜資料1＞図書館別自己評価及び実績数値

..... 15

運営形態別の主な指標の実績数値 16

杉並区立図書館全体の実績数値 17

中央図書館（一部業務委託館） 18

永福図書館（指定管理館） 20

柿木図書館（直営館） 22

高円寺図書館（直営館） 24

宮前図書館（指定管理館） 26

成田図書館（指定管理館） 28

西荻図書館（直営館） 30

阿佐谷図書館（指定管理館） 32

南荻窪図書館（業務委託館） 34

下井草図書館（業務委託館） 36

高井戸図書館（指定管理館） 38

方南図書館（指定管理館） 40

今川図書館（業務委託館） 42

＜資料2＞重点項目の評価表

資料の充実 44

ボランティアとの協働 46

他機関との連携 47

＜資料3＞利用者満足度調査

1 アンケート用紙の配布・回収数及び回答者の
状況 48

2 アンケート調査項目 49

3 主な指標の回答割合 49

4 アンケート調査項目に対する自由意見
..... 50

○アンケート用紙 51

＜資料4＞杉並区立図書館サービス基本方針... 52

＜巻末＞杉並区立図書館の概要 57

I 杉並区立図書館の運営状況評価の実施について

はじめに

杉並区立図書館では、平成 24 年度末に「杉並区立図書館サービス基本方針」（以下「サービス基本方針」（52 ページ参照）という。）を策定し、「学びの場」「知の共同体」「楽しい交流空間」の 3 つの視点と取組の方向を踏まえて、図書館サービスの提供に努めている。

この運営状況評価は、「サービス基本方針」に基づく図書館サービスの成果や達成度を明らかにし、図書館運営の効率化及び図書館サービスの向上を図るとともに、その結果を区民に公表することで図書館運営の透明性を高めるために実施してきた。

こうした中で、中央図書館の大規模改修や業務委託館 3 館の指定管理者制度への移行、（仮称）永福三丁目複合施設への永福図書館の移転改築など、区立図書館を巡る情勢は大きく変化している。

また、令和 3 年度には杉並区総合計画、杉並区実行計画、杉並区教育ビジョンの改定が予定されており、図書館の策定した「サービス基本方針」についても令和 4 年度に見直しが見込まれている。

それらを考慮し、本年度から各年度の運営状況評価に加えて、「サービス基本方針」に基づき設定された 10 項目の評価項目※について、中長期的な評価を毎年 3～4 項目を目途に実施することにした。3 年をかけて計画的に振り返りの評価を行い、次期「サービス基本方針」の策定時に活用することを目指している。

本年度の場合、具体的には、平成 30 年度の事業を分析したうえで、今年度振り返りの評価を行う項目について、「サービス基本方針」策定後の主な成果を評価し、課題と今後の取組の方向性を確認していく。

また、これまでの評価では、評価に係るそれぞれの役割がやや不明瞭な部分があった。「図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成 24 年 12 月 19 日 文部科学省告示第 172 号）」では、図書館が自ら点検・評価を行い、さらに図書館協議会等を活用していわゆる第三者評価を行うことを求めている。しかし、これまでの評価では、本来、中央図書館自らが点検・評価すべき各図書館の細かな点にまで、図書館協議会委員が参画する枠組みであったため、区立図書館全体あるいはそれを超えた観点からの評価に結びつかないケースも一部見受けられた。

こうしたことも踏まえ、今回の評価からは、役割を明確化し、各図書館の自己点検・評価を中央図書館がさらに点検・評価したものに対して図書館協議会による第三者評価を行うこととした。

※「サービス基本方針」をもとに設定した 10 項目とは、学びの場（①資料の充実、②誰もが利用しやすい図書館に）、知の共同体（③レファレンス（調べもの相談）の充実、④講座・講演会・行事の開催）、楽しい交流空間（⑤ボランティアとの協働、⑥快適な読書空間の整備、⑦子ども読書活動の推進）、取組推進のための基盤整備（⑧他機関との連携、⑨人材育成・研修計画、⑩広報・情報発信）である。（15 ページ「評価する 10 項目」参照）

II 平成 30 年度の評価

1 評価の目的

- (1) 図書館サービスの成果や達成度を明らかにし、効率的・効果的な図書館運営を実現することにより、創意工夫による特色ある図書館づくりを図る。
- (2) 経営評価プロセスへの区民参画と運営状況評価結果の公表により、図書館運営における客観性・透明性の向上を図る。

2 対象

杉並区立図書館 13 館の平成 30 年度事業

運営形態	図書館名
一部業務委託館	中央
直 営 館	柿木、高円寺、西荻（3 館）
指 定 管 理 館	永福、宮前、成田、阿佐谷、高井戸、方南（6 館）
業 務 委 託 館	南荻窪、下井草、今川（3 館）

※一部業務委託館 区が職員を配置し運営しているが、民間事業者に窓口業務を委託している館
※直営館 区が職員を配置し、直接運営している館
※指定管理館 民間事業者である指定管理者が、窓口業務、施設の維持管理を行う館
※業務委託館 民間事業者に窓口業務を委託している館

3 実施方法

「サービス基本方針」を踏まえ、平成 30 年度の杉並区立図書館の取組状況について、各館の評価表及び実績数値（18 ページ以降参照）、利用者満足度調査（48 ページ参照）等に基づき、今後の区立図書館の運営・サービスの改善、充実に活かしていくため、中央図書館が区立図書館全体について「評価対象年度の総括的評価」及び「評価項目（10 項目）の評価」を行った。

4 評価対象年度の総括的評価

(1) 蔵書の状況

全体としては、図書資料費の削減により、購入冊数が 98,561 冊（前年比 93.4%）（17 ページ「杉並区立図書館全体の実績数値」参照）となった上、蔵書規模の適正化を進めたことにより、全館の蔵書冊数は約 216 万冊（前年比 96.5%）となった。人口が増え利用登録者数も増加しているが、年間貸出冊数は区民 1 人あたり 7.65 冊（前年比 100.4%）を保つことができた。単に蔵書を減らしたということではなく、開架資料の更新や魅力ある棚づくりを進め、区民ニーズに応えてきた成果であると考え。財政状況が厳しい中でも、選書や分担収集によりバランスのとれた質の高い蔵書構築を進めていく必要がある。

(2) 図書館活動

図書館活動の実績では、データベース利用回数が 1,007 回増（前年度比 125.6%）と大幅に増えている。これは、閲覧館を拡大（ブリタニカ、マガジンプラス、D1-LOW）したことなどによる。しかし、利用件数自体はまだ少ないため、印刷サービスや利用講座の

開催等、利便性の向上と利用啓発に努めなければならない。

レファレンスサービスについては、件数は横ばいであるが、利用者への積極的な声かけや回答の質の向上等に努めていきたい。

講座・講演会等の事業の実施回数、参加者数は、ともに前年を上回った（前年比 109.0%、106.7%）。平成 30 年度の特徴として、夏休みの子ども向け行事「なつやすみ読書チャレンジ」を直営館の高円寺と、指定管理館の永福、方南の 3 館で協働実施し、新しい連携の形がみられた。また、「杉並区と大塚製薬株式会社との連携と協働に関する包括協定」による健康講座（宮前等）や、継続して行っているワークショップ形式のビジネス書読書会（成田、阿佐谷）、その他地域住民・団体による講演会等、各館での工夫や外部との連携を活かした行事が行われたことは評価できる。行事による集客にとどまらず、いかに継続的な図書館利用へ結び付けていくかという課題について取り組むために、各館の情報共有や連携がより必要になる。

学校への支援については、学校図書館の充実により調べ学習資料の貸出が減ってきているが、ブックトークや図書館見学だけでなく、行事等でも連携・協力を進めていくことが求められる。

（3）経費（コスト）

全館コストについては、貸出 1 冊あたり経費（コスト）395.9 円、利用者 1 人あたり経費（コスト）610.5 円となっており、平成 29 年度と比較すると 94.4%、93.6%と減少している。これは、平成 29 年度にシステム機器入替及びバージョンアップ経費等が発生したことが大きな原因と思われる。

また、利用者 1 人あたり経費（コスト）が低下しているのは、入館者数が、サービス基本方針を定めた平成 25 年度（2,769,640 人）以降、最高の 2,835,617 人となったことも寄与している。

運営形態別の経費（コスト）については、指定管理館、業務委託館ともに複数年に渡る指定管理期間及び業務委託期間の途中のため、委託料に大きな変更がないことから、直営館に比べ指定管理館や業務委託館のコストパフォーマンスがよいことには変わりはない。

（4）利用者満足度調査に基づく評価

主な指標の回答割合をみると、「満足」と「やや満足」を合計した数値は前回の調査と比べても全館平均値に大きな違いは見られなかった（49 ページ「利用者満足度調査結果による主な指標の回答割合」参照）。

「職員の対応」や「書架・資料の状態」については、前年に引き続き高い満足度の評価となっている。特に「書架・資料の状態」は 9 館が前年度を上回り、蔵書規模の適正化の効果が開架部分に表れたものと考ええる。蔵書冊数を減らすことによって、逆に新しい本が目立つようになり、高書架の上の段を空ける等の工夫により使いやすい棚づくりを進めた成果と考ええる。

「レファレンス（調べもの相談）」や「行事（講演会・おはなし会など）」については、数値としては低いものの、実際に利用した利用者では、昨年と同様に 9 割以上の高い満足度を得ている。「行事（講演会・おはなし会など）」では、中央図書館と今川図書館が特に高い伸び率をみせた。中央図書館では、元々おはなし会・科学あそび・映画会など、

人気のある定着した行事があったが、「ねじめ正一展 常に詩人である」、「上野正彦講演会『逆さの視点』－死から生を見る」、展示『「谷川俊太郎の世界」～二十億光年の孤独～」、「谷川俊太郎・福田進一 詩の朗読×ギターの調べ×対談『詩と音楽が恋をして』」など、杉並区在住の著名人の講演会や展示を行ったこともあり、36.0%から 45.1%に伸びている。また、今川図書館は、展示と関連付けて企画した「琵琶で聴く・幕末 西郷隆盛」が好評だったことなどにより、34.8%から 49.7%に上昇している。

「借りたい本」や「館内展示（資料展示・飾りつけなど）」についても昨年と同じ傾向を示している。

運営形態別にみると、指定管理館と業務委託館は概ね前回同様の評価を得ているが、直営館の「借りたい本」、「レファレンス」、「行事」などの指標については、指定管理館や業務委託館の評価に比べて、もう一段の努力を要するという傾向に変化はなかった。直営館については、築年数も古くエレベーターのない館もあり、来館者からの評価に一定の影響があると思われるが、より一層の利用者評価を高めていけるよう引き続き取り組んでいく必要がある。

(5) まとめ

平成 30 年度は、翌年に大規模改修を控えた中央図書館の基本・実施設計や住民説明会の実施、休館に伴う仮設事務所及び荻窪臨時図書窓口の開設準備並びに永福図書館移転改築のための実施設計及び住民説明会の実施など、本来業務に加え、次年度に備えるための一年となった。しかし、閉館を伴う施設改修工事などもなく、全体的に概ね順調な運営が行われたものと評価している。

また、前年度に明らかになった課題や改善点についての取組により、実績数値や利用者満足度にも改善がみられた。今後も、蔵書規模の適正化による蔵書冊数減をマイナス要因とせず、開架の新鮮度を保つとともに、課題を解決できる図書館、役に立つ図書館を目指す必要がある。また、行事は来館のきっかけとなるため、図書館利用者をさらに増やしていくよう、一層の工夫と連携を進めていくことが求められる。

5 評価項目(10 項目)の評価

(1) 資料の充実

蔵書規模の適正化による成果として、資料の更新や使いやすい棚づくりを行うことができた。また、関心の高いテーマ（介護、子育て、緑化推進等）についての展示や講座を行い、課題解決型サービスの充実が図られた。地域資料については、保存のための行政資料のデジタルアーカイブ化[※]を平成 29 年度に引き続き行うとともに、地域図書館では、高井戸図書館でボランティアとの協働による地域史の発行を行う等、地域の方々から好評を得た。

※デジタルアーカイブ化…保存を目的に、区で発行した資料についてデジタル化（画像データ化）したもの。

(2) 誰もが利用しやすい図書館に

利用者の要望や職員からの提案を取り入れて、書架案内図や館内サインの表現を分かり易くするよう努めた。例えば西荻図書館では、雑誌タイトルや閲覧席利用カードの文字を大きくしている。また、阿佐谷図書館では手話を使ったおはなし会や障害者スポーツやLGBT等をテーマにした映画会を開催するとともに、今川図書

館では合理的配慮をテーマに職員研修を行う等、バリアフリーに配慮した図書館運営を実施した。

(3) レファレンス（調べもの相談）の充実

職員は中央図書館や東京都立図書館主催のレファレンス研修に参加し、スキルアップに努め、館内での情報共有を行った。また、レファレンスサービスの周知のため、「杉並区教育報 No.230」（平成30年9月30日号）に紹介記事を掲載するとともに、貸出・返却などで図書館を訪れた利用者への丁寧な声掛けにより、利用促進を図ることができた。

しかし、レファレンス件数の実績をみると、前年比180%を超えている館もあれば50%以下となっている館もあり、その差が大きい。件数のとり方を「クイックレファレンス」と「参考調査」に分けていたものを「所蔵調査」と「参考調査」に変更したことも要因として考えられるが、実態について調査し原因を明らかにする必要がある。

(4) 講座・講演会・行事の開催

全館の実績で見ると事業実施回数（前年比109.0%）、事業参加者数（106.7%）ともに昨年度を上回っている。各館、幅広い利用者のニーズに合わせた企画の実施に努めるとともに、区の他の部署のほか、地域の人たちや団体と連携した企画の実施を行った。例えば学校の夏季休業中に、近隣館が協働でスタンプラリーを実施（永福、高円寺、方南）、地域の方による工作会・環境講演会などの開催（南荻窪）等、様々な形の協働や連携がみられた。

また、子ども読書活動の推進のための取組としては、方南図書館でおはなし会を月齢・年齢別5つに分けて実施する等の工夫がみられた。

集客だけでなく、参加者の図書資料の貸出促進につなげるよう、ワークショップ形式のビジネス書読書会（成田、阿佐谷）や各国の文学をテーマとした講座（西荻）等も行っている。

現状では各館ごとに工夫をして取組んでいるところであるが、今後、杉並区立図書館全館での統一テーマによる取組も考えていく必要がある。

(5) ボランティアとの協働

ボランティアの協力を得て、各図書館でおはなし会などの児童向けの催しを開催できた。中央図書館では、障害者サービス、ブックスタート事業、馬橋ふれあい図書室の運営など、さまざまな分野でボランティアとの協働を図ることができた。

また、中央図書館休館に備え、中央図書館を拠点として活動しているボランティア団体の活動場所の調整を行い、円滑に移行することができた。

各館それぞれに工夫してボランティアと協働しているが、他館の取組について知る機会が少ないため、今後は情報共有が求められている。

(6) 快適な読書空間の整備

各館では限られたスペースを工夫し、実情に応じて環境整備に努めた。館内に植物や椅子を配置したり（宮前）、行事のないときに集会室を閲覧スペースとして開放した館（成田）があったほか、雑誌コーナーや閲覧コーナーに机を増やしたりする（阿佐谷）取組により、居心地の良い空間づくりを進めた。また、不具合箇所の

迅速な修繕を図るとともに、定期的に館内の巡回を行うなど安全・安心の確保に努めた。

学校の夏季休業中に多目的室を調べ学習室として開放することは以前から行われていたが、今川図書館では、通年で開放する取組を始めている。

(7) 子ども読書活動の推進

各館とも新たに改定された「子ども読書活動推進計画」(平成30年度～平成33年度)に基づき、行事、展示等の事業を展開した。また、YA*サービスの取組では、各館とも、YAコーナーの拡充に取り組むとともに、多様な子ども向け事業・サービスを展開した。さらに、近隣の小学校児童による紹介本の掲示(南荻窪)や、中学生によるおはなし会(西荻)の実施などの取組もみられた。

学校との連携については、各学校の年間スケジュールが予め定まっているため、学校司書や教員と打ち合わせの時間を持つことが困難な面もあった。

※YA(ヤングアダルト)…図書館サービス対象者のうち、主に中学生・高校生を表すもの。

(8) 他機関との連携

各図書館がそれぞれの地域の学校や施設等と連携し、協力して多様な事業を行うことができた。また、大学図書館ネットワーク事業として、区民の大学図書館利用や、ネットワーク講演会も継続的に実施できた。

中央図書館休館に際しては、各団体と、団体貸出や調べ学習資料の貸出方法の調整を行った。今後、リニューアルオープンに向けて調整を図っていく必要がある。

(9) 人材育成・研修計画

中央図書館では、全職員を対象に接遇研修(1回)、レファレンスサービス研修(2回)及び図書館の自由に関する研修(1回)を実施した。各館とも中央図書館で実施する研修への参加やOJTの実施とともに、外部研修にも積極的に参加しており、受講後の研修内容の共有化を図り、スキルアップにつなげている。今後も引き続き職員の参加を促していく必要がある。

(10) 広報・情報発信

広報すぎなみや図書館ホームページをはじめ、図書館だよりの発行、チラシの配布など様々な媒体による情報発信を積極的に行った。紙媒体の配布については自館だけでなく近隣施設や広報スタンドを利用している地域館もあった。また、SNSを利用した情報提供は宮前図書館1館から高井戸図書館が開始したことにより2館となった。今後、新たに取り組んだ館の状況を調査することで、今後の方向性を検討していく必要がある。

Ⅲ 重点項目の評価

1 重点項目の評価

今後予定している「サービス基本方針」の見直しに合わせ、10 項目の評価項目について、今年度から令和3年度にかけて毎年3～4項目を重点項目として深く掘り下げた評価を実施していく。

今年度、取り上げる項目については、「快適な読書空間の整備」等、図書館の一連の改修・改築が落ち着いてから評価した方が望ましい項目や、2年後に計画改定を予定している「子ども読書活動の推進」などを除き、3つの視点と取組の方向を踏まえて、学びの場から「資料の充実」、楽しい交流空間から「ボランティアとの協働」、取組推進のための基盤整備から「他機関との連携」の項目を一つずつ選び、3項目を重点項目とした。

評価にあたっては、地域図書館長の意見も聴取した上で平成30年度の評価を行い(44ページ参照)、その上で「図書館サービス基本方針策定後の主な成果」、「課題と取組の方向性」等について評価した。

(1) 資料の充実

事業の概要	「学びの場」としては、ニーズに応じた多様な資料を収集し、誰もが利用しやすい環境を整備するよう努めている。平成28年度に「図書館の電子情報サービスへの対応方針」を定め、情報通信技術を活用したサービスの導入について検討するとともに、区の実行計画に基づき有料データベースの充実や、行政資料のデジタルアーカイブ化に取り組んでいる。 「知の共同体」としては、地域資料の収集や作成により、「杉並」に関する資料の蓄積を進めている。
-------	---

【図書館サービス基本方針策定後の主な成果】

(1) 資料の充実、情報収集

平成28年度から進めてきた蔵書規模の適正化により、平成30年度末の蔵書冊数は216万冊となり、「サービス基本方針」を策定した平成24年度の239万冊から大幅に減少した。一方、平成24年度と平成30年度の貸出冊数を比較すると、15万冊増加しており、蔵書冊数の減少は貸出冊数の減少にはつながっていない。

利用者満足度調査の「借りたい本は揃っているか」「書架の状態や資料の状態」の値についても各館共おおむね改善されていることから、蔵書数は減少したものの、蔵書の内容について更新が図られ、書架に余裕が生まれることで利用しやすい棚づくりが進み、利用者のニーズに応えた収集や棚づくりという成果が表れている。

(2) 電子図書館としての機能充実

電子図書館としての機能充実については、平成28年度に「図書館の電子情報サービスへの対応方針」を定め、実行計画事業として行政資料のデジタルアーカイブ化、有料データベースの充実、視覚障害者向けDAISY資料^{*1}の充実に取り組んできた。

資料の保存を目的とした行政資料のデジタルアーカイブ化は、平成30年度末で

286件と計画を上回るペースで進んでおり、今後も継続していく予定である。有料データベースは、種類や利用できる図書館数を増やしており、プリントアウトサービスの開始について準備を進めているところである。

利用者の情報リテラシーの向上に向けた取組として、高井戸図書館では毎年館内の利用者用端末機の使い方についての「図書館利用講座」を行っている。資料探索の手引きとなるパスファインダーは、中央図書館で作成したものを図書館ホームページで公開し、館内で冊子を配布している。誰もが必要な情報を入手できるような場となるよう、このような取組をさらに広げていく必要がある。

(3) 地域資料の収集・保存

地域資料については、各館で地域ゆかりの作家の資料を収集するだけでなく、資料展示や講座等と関連づけをしている。資料の収集だけでなく、図書館の周年行事で図書館の思い出をテーマにした作文を募集（柿木）、情報誌を発行（阿佐谷）、地域史に関する冊子の作成（高井戸）、地域の昔話を元にした絵本をボランティアとの協働で作成（方南）といった取組を行った。図書館から地域へ情報発信をしていく取組が生まれてきたことは大きな成果である。

※1 DAISY 資料…視覚障害者等、通常の読書が困難な人のために、国際規格に基づきデジタル化された音声等資料

【課題と今後の取組の方向性】

蔵書規模の適正化については、各館で四半期ごとに進捗状況を確認し中央図書館に報告することで、全館の状況を把握しながら着実に進めている。令和2年度が最終年度であるため、目標値に達するよう全館で取り組んでいく。

蔵書規模の適正化により蔵書冊数が減少する一方で、資料費の削減により購入冊数も年々減少している。資料費の確保に努めるとともに、開架部分では蔵書の新鮮度を維持できるよう、除籍と買い替えによる魅力ある棚づくりを今後も進めていく。分担収集による効率的・効果的な資料収集については、資料管理委員会で検討を行う。

また、「図書館の電子情報サービスへの対応方針」で見送りや保留となっているもの（ICタグシステム、音楽配信サービス、電子書籍、SNSの活用等）の導入等について、検討を続けていく必要がある。特に、Twitter（ツイッター）での情報発信については、実施している館（宮前、高井戸）の状況を調査し、今後の方向性を検討していく必要がある。行政資料のデジタル化については、当初の目標を超えてデータ作成を行っているが、保存だけでなく公開のあり方について、他自治体の先行事例を参考に検討を進めていきたい。

利用者の情報リテラシー向上に向けた取組については、利用者用端末機や有料データベースの使い方についての講座を全館で実施していくことが望ましい。

地域資料の保存・伝承については、郷土博物館等との連携を深め、区全体で取り組んでいく必要がある。また、新しく制定された視覚障害者等の読書環境整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）に基づく資料の収集や環境の整備も課題である。図書館の改築・改修時に施設・設備を整えるとともに、文字の大きい本、ふりがなや写真、絵文字を使って読みやすくした本（LLブック）等、誰もが読書を楽しめるような資料の収集に力を入れていく。

(2) ボランティアとの協働

事業の概要	ボランティアや図書館を支援してくれる人たちとの協働により、障害者や高齢者・子ども向けなど多様なサービスを展開し、「楽しい交流空間」としての図書館を実現する。
-------	--

【図書館サービス基本方針策定後の主な成果】

(1) 障害者サービスに関わるボランティア

中央図書館では、3年に1回、「音訳ボランティア養成講座」を開催し、障害者サービスに従事する人材を育成している。講座を修了したボランティアは、3つの団体に分かれて所属し、DAISY資料の作成や対面朗読などに従事している。

各団体は月1回程度の定例会において、試聴・勉強会等を自主的に行っているが、図書館も隔年でステップアップ講座を開催し、朗読技術の向上が図れるよう支援している。また、都立図書館等の専門研修を紹介し、受講の推薦も行っている。

図書館が、新規ボランティアの育成や、活動中のボランティアのスキルアップを援助することで、活動が順調に継続できている。

(2) 児童サービスに関わるボランティア

中央図書館では、平成29年度に、「すぎなみ地域大学」^{※1}と連携し、「児童サービスボランティア育成講座」を開催した。終了したボランティアは、ブックスタート事業などのボランティアとして活躍している。

また各館で、職員とボランティアが協働し、「地域子育てネットワーク事業」^{※2}への参加や、児童館・保育園・子どもセンター等、近隣施設に出向いて事業を行っている。

ボランティアの活躍の場は広がりつつあるが、各館の立地や地域性によりその活動内容は千差万別である。今後、図書館同士の情報交換の場が望まれる。

(3) ふれあい図書室ボランティア

図書館未整備地域での図書館サービスの提供を目的とした拠点事業である「馬橋ふれあい図書室」を、ボランティアによる運営で毎週日曜日に開室している。予約した本の受け取りや、返却ができ、棚にある本や雑誌を閲覧することもできるため、利用者に好評である。

(4) その他のボランティア

成田図書館では「書架整理」、高井戸図書館では「本の修理」など、ボランティアの担当業務を広げ、多様な人材の協力を得ている。

図書館を日常的に支援する活動に従事することで、図書館への理解を深めていただくよい機会となっている。

(5) ボランティア全般について

ボランティアとの連携強化を図るため、情報交換会を開催している図書館もある。

永福図書館では、年2回「ボランティア連絡会」を開催し、ボランティア同士の交流も図っている。

また、今川図書館では、「子どもの読書応援団」と銘打った「意見交換会」を実施している。それぞれのボランティアが習得したスキルを共有することで、おはなし会全体のレベルアップにつながっている。

西荻図書館のように、ボランティア個人や団体に個別に要望を聞き、次年度の事業計画に反映している館もある。

ボランティアからの意見を、事業内容に活かすこともでき、ボランティア同士が情報交換する場合は、それ自体がひとつの「楽しい交流空間」といえる存在となっている。

こうした取組によって区民の自発的な活動も増え、ボランティアの発意によって始まった「えいごおはなし会」（中央図書館）のような催しもある。

※1 すぎなみ地域大学…区民が、地域活動に必要な知識・技術を学び、仲間を広げ、地域社会に貢献できるよう企画された講座。

※2 地域子育てネットワーク事業…全小学校区で児童館を事務局として、地域ぐるみで子育てを応援する事業。

【課題と今後の取組の方向性】

今後、ボランティアに従事している人材が、より主体的に業務に取り組んでいけるよう、情報提供や研修を行っていく必要がある。そのためには、どのような情報や研修が必要か、ボランティア従事者の意見を聴き、取入れていくことが大切である。

また、ボランティアの知識や技術の水準を維持していくためには、それを継承する新たな担い手も増やしていかなければならない。「すぎなみ地域大学」のさらなる活用や、「すぎなみ協働プラザ」^{※3}との連携などで、多様な分野での人材の発掘を図っていくことが必要である。

ボランティアに参加したいと思いつながら、情報不足などで踏みきることができない区民を掘り起こすため、積極的な広報活動を行っていかなければならない。

現在、ボランティアの活動内容は館によって違いがある。今後、各図書館の担当者による情報交換の場を作り、課題の整理や人材活用策などについて話し合い、新たな方向性を検討していく必要がある。

※3 すぎなみ協働プラザ…区内で活動する地域活動団体(NPO法人・地域団体・企業など)の交流拠点。

(3) 他機関との連携

事業の概要	「サービス基本方針」の目標を実現するための「取組推進のための基盤整備」の一環。区内の多様な社会教育・生涯学習施設、小・中学校や大学図書館との連携により「生涯にわたる切れ目のない支援」を実現する。
-------	---

【図書館サービス基本方針策定後の主な成果】

(1) 学校との連携

平成24年度に区立小・中学校全校の学校図書館に学校司書が配置された。このため、調べ学習資料の貸出や団体貸出等の「支援」だけでなく、各種コンクール事業の啓発やブックトークの実施、共同の広報誌の発行など互いに連携することができている。学校司書が調べ資料の検索・貸出の際に利用できる「学校司書カード」の利用も平成25年度より本格的にスタートしている。

また、学校司書連絡会^{※1}を開催している図書館も徐々に増えてきた結果、南荻窪図

書館では事業の告知を学校の図書館だよりに掲載してもらい来館者増を図ったり、下井草図書館では共同でYA向けブックリストを作成したりするなど、連携が広がってきている。

各学校の年間スケジュールが予め定まっているため、学校司書や教員と打ち合わせの時間を持つことが困難な面があるが、必要な調整を粘り強く行うことで、事業実施に結びつけている。

(2) 近隣施設との連携

各館とも「地域子育てネットワーク事業」への参加や、児童館・保育園・子どもセンター等、近隣施設に出向いて「おはなし会」「ブックトーク」などの児童向け事業を行っている。中央図書館では、重症心身障害児通所施設「わかば」への出張おはなし会や、さざんかステップアップ教室（適応指導教室）でのブックトーク等、支援を必要とする子どもを対象とした事業にも取り組んでいる。

また保育施設等に勤務する保育者を対象とした研修で、「発達にあった絵本の選び方」や「読み聞かせ」に関する研修も行っている。

下井草図書館が区民センターまつりでリサイクル本市を行ったり、中央図書館が子育てメッセ、サイエンスフェスタなど、区の他部署主催の事業に出展したりして、図書館の事業の紹介や案内を行っている。

また、阿佐谷図書館で産業振興センターによる「中小企業診断士による創業・経営相談会」を実施したり、中央図書館他で子どもセンターによる「子育て相談」を実施するなど、近隣施設との連携で来館者の相談窓口を開設している図書館もある。

近隣施設との連携により、関連図書の貸出も含め、個人や地域の課題解決を図るための新たな図書館の役割を発揮している。

(3) 区内大学図書館との連携

区と区内大学図書館との協定により図書館ネットワークを組み、区民に大学図書館利用を開放するとともに、平成17年度から区と大学が連携・協力したネットワーク講演会も継続して開催している。

また、図書館ネットワーク以外の取組として、西荻図書館や今川図書館では、東京女子大学と協力して講演会等を実施している。

より専門的かつ高度な情報・知識を求める区民の期待に応えることができている。

※1 学校司書連絡会…地域の学校司書との懇談会。

【課題と今後の取組の方向性】

子どもを対象とするものに比べると、成人や高齢者を対象とする関係機関との連携は限定的である。学校や保育園・児童館など、主に子どもを対象にした関係機関との連携を引き続き積極的に行っていくとともに、今後は成人や高齢者を対象とした関係機関への働きかけも積極的に行い、全世代に渡るサービスを充実していく。

また、各館が把握している地域の課題について、近隣の施設や団体と、今後より一層協力して解決を図っていかねばならない。

区立図書館全体で取り組んでいくことがふさわしい取組依頼が他機関から来ることもあるが、すでに各館のスケジュールが確定していることが多く、全館共通で取り組むことが難しい。準備段階から各館の参加が得られるよう、早めに調整していく必要

がある。

大学図書館ネットワーク事業については、一部の大学図書館の利用料の増額や、立教女学院短期大学の閉学などの状況の変化はあるが、今後とも大学の地域貢献の一環として、区民の図書館利用に引き続き取り組んでもらえるよう、働きかけを行っていく必要がある。

IV 今後の方向性について

平成 24 年度末に策定した「サービス基本方針」は令和 4 年度に見直しを行う予定である。新しい基本方針を策定する際、配慮すべき事項として次のことが挙げられる。

これまで区立図書館では、「サービス基本方針」に掲げる図書館像である、「学びの場」、「知の共同体」、「楽しい交流空間」としての図書館の実現に向けて、各年度における事業の進捗状況や達成度について図書館評価を行うことにより、PDCA サイクルに則った計画的なサービス・事業の推進を図ってきた。

こうした中で、杉並区実行計画、杉並区行財政改革推進計画及び杉並区区立施設再編整備計画等に基づき、区立図書館を巡る環境は大きく変化している。従来の指定管理館は、2 館 1 グループの運営を行ってきたが、令和 2 年度に業務委託館 3 館が指定管理館となることに伴い、3 館 1 グループの運営という新たな形態も生まれる。また同年 9 月には、現在、大規模改修に伴い休館中の中央図書館がリニューアルオープンする予定である。さらに令和 3 年度には、永福図書館が地域コミュニティ施設や保育園との複合施設に移転改築するとともに、永福図書館以外の指定管理館も指定管理期間満了を迎え、新たなグループ化や事業者の変更の可能性もある。これまで長きに渡り、区立図書館を巡る基本的な条件に大きな変化がない中で、図書館評価は前年度の実績等を評価・分析し、改善につなげてきたところである。しかし、運営形態や図書館の物理的条件のほか、事業者の変更の可能性まで踏まえれば、前年実績等を評価する手法を単純に継続するだけでは、今起こっている変化には適切な対応ができないため、新たな評価手法が求められている。

また、「サービス基本方針」見直しの際に、特に中心的な考え方である「10 年後の図書館像」や「学びの場」、「知の共同体」、「楽しい交流空間」という 3 つの視点と取組の方向について、「サービス基本方針」策定から今日までの状況を改めて評価・分析するとともに、区政の動向も含めた時代の変化に対応した新たなビジョンを描いていかなければならない。

今回の図書館評価においても、平成 30 年度の評価を行っているが、区立図書館を巡る大きな変革が進行している中で、その重心を未来を見据えた評価に移行させていく必要がある。そのような事情で今回の図書館評価から、評価手法を変更したが、図書館評価の適切なあり方については、引き続き調査・研究を進め、今後の改善へとつなげていく。

V 図書館協議会の意見

1. 新しい評価枠組みに関する意見

- 従来の枠組みに対して、各図書館による自己点検・評価→中央図書館による評価→図書館協議会による評価(第三者評価)とそれぞれの評価の観点や役割が明確になったことを評価したい。
- もっとも、初めての試みということで改善すべき以下の点も見受けられた。
 - 1) 中央図書館の総括的評価に「サービス基本方針」にもとづいて設定した10項目に関するまとまった説明の追加:区民に分かりやすい説明となるために必要
 - 2) 各図書館による自己点検・評価の要旨の掲載:次年度以降は、評価報告書にそのまま掲載できるように様式を工夫して報告書作成作業の軽減を図りつつ、自己点検・評価の要旨を掲載
 - 3) 各年度の評価報告と杉並区図書館サービス基本方針の達成状況の評価の区分

2. 平成30年度の総括的評価に関する意見

- 現在杉並区立図書館は業務統計的に良好であると評価できる。その点を踏まえて、「全体的に、概ね順調な運営が行われたもの」という中央図書館による自己点検・評価に対する総括的評価は妥当であると判断する。
- その上で、図書館活動のさらなる向上を図る観点から以下の意見を述べる。
 - 運営形態に関する評価
 - ◇ 直営館において施設の老朽化が著しく、図書館としての期待される役割が異なる点もある。単純な比較のみで評価するのは望ましくない。
 - ◇ 運営形態の違いをここまで強調する必要があるのだろうか。あるならば、その理由・意図について説明をすべきである。
 - 開架冊数に占める購入冊数の比率(開架における蔵書新鮮度といわれる)は、7.0%であった。これは書架全体の約14.3分の1になる。購入冊数をこれ以上減少しない(まず資料費を確保することが大前提である)ようにした上で、蔵書規模の適正化と併せて開架における蔵書新鮮度として8%程度(12.5分の1)を目標としてほしい。
 - 利用者満足度調査結果を踏まえた改善についてであるが、ある程度達成できているもの(職員の対応等)と達成状況が高くないもの(レファレンス・行事)を分けて考えた方がよい。

3. 評価項目の評価

- 各年度の評価と基本方針策定後の達成状況に関する記述が混在している箇所があった。次年度以降はそれぞれの区別を徹底することを前提に、ここでは、基本方針策定後の達成状況に関する評価についてコメントする。
- 全般的に、運営形態の関係で横の連絡が難しい部分もあることを踏まえて、

図書館に関わる区民・関係者がつながるような機会を中央図書館として提供していく方向で検討していき、いくつかの図書館の取り組みを区全体のものとしていく必要がある。

- 資料の充実・情報収集
 - 蔵書適正化という図書館・図書館員にとって抵抗感がある（しかし、利用を伸ばすためには、資料の除籍・除架は重要である）方針に各館が協力を示したことによる達成できた点は評価したい。
 - 一方で、サービスの質を落とさないように資料費を確保し、購入冊数の維持に努めなければならないことはいうまでもない。
 - 「蔵書規模の適正化」という議論が、サービス基本方針のどの箇所に対応するのかわかりにくい。もっと説明を加えるべきである。あるいは「快適な開架と閲覧空間の確保という」観点で蔵書規模の適正化を考えてもよいのではないか。
- ボランティアとの協働
 - 中央図書館の役割としてボランティアの横の連絡の強化を検討すべきである。
 - DAISY 資料作成の責任は最終的に図書館側にあることを明確にすべきである。
 - ボランティア活動の継承については、参加のハードルを下げるだけではなく、高度なスキルを要する領域についてはノウハウ蓄積のために図書館が関与した方がよい。
- 他機関との連携
 - 学校司書との連携を強化していく必要がある。
 - 大学図書館ネットワーク事業については、区内に複数の大学があるメリットを活用するために今後も必要である。その上で、以下の点を考えてい。
 - ◇ 大学図書館にとって公共図書館利用の延長線上で考えられることに不都合があることについて図書館は区民の理解を求める必要がある。
 - ◇ 学内入構の手続きがとても大変であるという指摘もあった。この点についての交渉も必要である。

<資料 1> 図書館別自己評価及び実績数値

以下の資料を 17 ページ以降に掲載している。

- 1 杉並区立図書館全体の実績数値
- 2 各図書館別「図書館評価表（1）」
- 3 各図書館別「図書館評価表（2）」

※「図書館評価表（1）」は、「サービス基本方針」に基づき、評価する 10 項目について各図書館で自己評価を行い、目標と取組結果についてまとめた表とした。

<評価する 10 項目>

3つの視点と取組の方向	項目
学びの場	1. 資料の充実
	2. 誰もが利用しやすい図書館に
知の共同体	3. レファレンス（調べもの相談）の充実
	4. 講座・講演会・行事の開催
楽しい交流空間	5. ボランティアとの協働
	6. 快適な読書空間の整備
	7. 子ども読書活動の推進
取組推進のための基盤整備	8. 他機関との連携
	9. 人材育成・研修計画
	10. 広報・情報発信

<自己評価>

平成 30 年度当初に設定した目標について取り組んだ実績に対し、項目ごとに各館が A～D の自己評価を行った。

- A…目標を達成したうえ、高いレベルで取組が実施されていた。
- B…計画どおり実施され、成果があった。
- C…概ね計画どおりだが、一部課題が残った。
- D…計画どおりに行かず、取組みが不十分であった。

※「図書館評価表（2）」は、平成 30 年度の各図書館の実績数値を示したものである。

評価項目	指標とする数値
資料の充実	蔵書冊数
	購入冊数
	区民 1 人あたりの蔵書数（杉並区全体）
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数
	利用登録者数
	新規利用登録者数
	年間貸出冊数
	予約貸出冊数（杉並区全体）
	※杉並区ではシステム上図書館ごとの予約貸出冊数は算出できない。
	相互協力貸出冊数（都立図書館等の協力により貸出した冊数）
	区民 1 人あたり貸出冊数（杉並区全体）
	団体貸出団体数
	団体貸出冊数
障害者サービス実施回数（杉並区全体）	
レファレンス（調べもの相	レファレンス件数

談)の充実	データベース利用回数(杉並区全体)
講座・講演会・行事の開催	事業実施回数
	事業参加者数
ボランティアとの協働	協働(ボランティア)事業実施回数
他機関との連携	学校への支援回数(団体貸出を除く)
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館ホームページ掲載回数、おたより発行回数
	ホームページアクセス件数(杉並区全体)
経費(コスト)	貸出し1冊あたり経費
	利用者1人あたり経費

※「杉並区立図書館全体の実績数値」は、各図書館の「図書館評価表(2)」を合計したものである。

○ 運営形態別の主な指標の実績数値

運営形態別に各図書館の「図書館評価表(2)」を合計したものである。また、地域館の平均値と運営形態別の平均値を比較し、平均を上回った項目を太字・網掛けで表示している。

〈運営形態別の主な指標の実績数値(平成30年度)〉

	入館者数	新規登録者数	貸出冊数	レファレンス件数	行事(大人)回数	行事(大人)参加人数	行事(子ども)回数	行事(子ども)参加人数	ボランティアとの協働による事業回数
中央図書館	454,161	3,389	622,118	7,448	7	391	8	354	62
地域館平均	198,455	1,200	312,596	1,898	11	261	6	209	73
直営館平均	194,079	1,259	273,045	1,537	3	118	4	198	76
業務委託館平均	191,176	1,032	318,615	2,597	5	125	8	209	48
指定管理館平均	204,282	1,254	329,362	1,728	18	401	5	214	85

杉並区立図書館全体の実績数値

評価項目	指標	算出方法等	28年度実績	29年度実績	30年度実績	前年度との増減率	
資料の充実	蔵書冊数	実績	2,334,514	2,243,803	2,164,880	96.5%	
	購入冊数	実績	113,574	105,568	98,561	93.4%	
	区民1人あたりの蔵書数	蔵書数÷人口	4.15	3.96	3.79	95.6%	
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	2,761,796	2,778,546	2,835,617	102.1%	
	利用登録者数	実績	177,770	183,580	188,113	102.5%	
	新規利用登録者数	実績	17,746	17,926	17,784	99.2%	
	年間貸出冊数	実績	4,417,837	4,320,180	4,373,269	101.2%	
	予約貸出冊数（相互協力貸出は都立図書館等の協力により貸出したもの）	予約貸出冊数(13館合計)		1,531,414	1,399,008	1,520,308	108.7%
		・区内処理件数(13館合計)		1,525,194	1,392,658	1,514,233	108.7%
		・相互協力貸出(13館合計)		6,220	6,350	6,075	95.7%
	区民1人あたり貸出冊数	年間貸出冊数÷人口	7.86	7.63	7.65	100.4%	
	団体貸出団体数	団体別登録数	1,076	1,150	1,120	97.4%	
	団体貸出冊数	実績	220,316	222,945	226,104	101.4%	
障害者サービス実施回数	実績	3,133	2,408	2,361	98.0%		
レファレンス（調べもの相談）の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	34,662	30,062	30,218	100.5%	
	データベース利用回数	実績(全データベース13館合計)	3,588	3,935	4,942	125.6%	
講座・講演会・行事の開催 <small>（「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上）</small>	事業実施回数		2,421	2,431	2,649	109.0%	
	事業参加者数		34,025	33,534	35,794	106.7%	
ボランティアとの協働	協働（ボランティア）事業実施回数	協働事業実施回数	791	959	943	98.3%	
他機関との連携	学校への支援回数（団体貸出を除く）	調べ学習資料貸出	1,187	1,258	1,235	98.2%	
		ブックトーク等	86	75	87	116.0%	
		職場体験	73	56	54	96.4%	
		図書館見学	42	41	43	104.9%	
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数		905	821	833	101.5%	
	ホームページアクセス件数	トップページへの年間アクセス件数	29,885,413	30,739,414	33,931,070	110.4%	
経費（コスト）	貸出し1冊あたり経費(円)	年間経費÷貸出冊数	395.4	419.4	395.9	94.4%	
	利用者1人あたり経費(円)	年間経費÷入館者数	632.5	652.1	610.5	93.6%	

図書館評価表(1) 中央図書館

評価項目	自己評価	平成30年度の目標	取組結果
資料の充実	A	蔵書規模の適正化を推進するとともに、開架部分の資料について除架や買い替えを進めていく。	開架部分について受入年の古い資料のリストを作成し、除籍を進めた。達成率102.1%で目標値を達成した。
		DAISY資料の作成点数の増を図る。	DAISY資料を着実に作成し、所蔵点数を増やした。休館中のボランティアの活動拠点についても調整を終えた。
		行政資料のデジタルアーカイブ化について、100タイトルを目標に実施する。	「杉並区立図書館要覧」「杉並区勢概要」「杉並区教育要覧」等のデジタル化を行った。149タイトル作成し、累計286タイトルとした。
		ICTを活用したサービスの可能性を探る。	国立国会図書館の視覚障害者等用データサービスは、年度途中(9月)からの開始でありながら、2千件を越える利用があった。
誰もが利用しやすい図書館に	B	魅力的なYAコーナーづくりを進める。	館内整理日などにコーナーの本を入れ替えながら、新鮮な書棚づくりを心掛け、継続的な利用を促した。
		パソコンコーナーを時間制にすることで公平な利用を図る。	参考図書室外のコーナーに新たにPC席を設置し、時間制とした。荷物を置いたまま離席し、荷物を引き上げることもあったが、設置前と比べ苦情が減り、おおむね問題なく運用することができた。
レファレンス(調べもの相談)の充実	B	全館の職員を対象とした研修を行い、レベルアップを図るとともに、各館のレファレンスサービス事例の活用や共有化について検討し改善を図る。	外部講師により2回実施した。「レファレンスサービスへのデータベース活用」(3回、のべ71名)、「地域活性化を支えるレファレンスサービス」(32名)。
		レファレンスサービスの周知や利用拡大に向けて検討し、取組につなげていく。	「すぎなみ教育報」9月30日号(No.230)にレファレンスサービスの紹介記事を掲載するとともに、来館者への声掛けにより利用促進をはかった。
		データベースの使い方についての職員研修を行い、利用者の利用促進に向けて検討する。	データベース事業者による利用方法の研修を行った。
		パスファインダーの利用促進を図る。	「介護のことで困ったら」(一般向け)を作成した。また、印刷したものを館内に設置するとともに、各図書館へ配布し活用を促した。
講座・講演会・行事の開催	B	地域の区立施設や友好自治体等との共同事業を実施する。	スポーツ振興課と連携した「オリパイベント」、産業振興センターと連携したアニメのパネル展示等を行った。
		視聴覚ソフト(16ミリフィルム等)を活用した事業の実施を行う。	地域図書館の職員に16ミリフィルムや映写機の扱い方を指導し、中央図書館以外でも上映できるよう取組んだ。
		重点収集分野「健康・行政」に関する展示等を実施する。	自殺予防月間・食育週間・認知症予防・防災・リサイクルなど、区の他部署の取組と連動した図書展示を行った。
ボランティアとの協働	A	図書館ボランティアの継続的な育成・支援を行う。	外部講師を招き、中堅ボランティア対象のレベルアップ講座を開催した。
		スタッフとボランティア合同でおはなし会を実施する。	ボランティアとスタッフによるお話し会は事前準備や当日の運営について役割分担をしながら、円滑に実施することが出来た。
快適な読書空間の整備	B	館内外の巡回を継続して行い、図書館の安全や秩序を維持するよう努める。	巡回専門のスタッフによる館内外の巡回を継続的に実施し、図書館の安全管理に取組んだ。
子ども読書活動の推進	B	あかちゃんタイムを実施し、乳幼児連れの保護者の利用を促進する。	毎週、あかちゃんタイムを実施し、乳幼児連れの保護者の参加を着実に増やした。
		プレママ・プレパパへの子ども読書啓発事業を実施する。	サイエンスフェスタ、子育てメッセなど多数の区民が参加するイベントに出展し、プレママ・プレパパも含めた子育て世代の区民に図書館の子ども読書活動について広報した。
		新たに改定された「杉並区子ども読書活動推進計画」(平成30年度から平成33年度)に従い、子どもの読書活動の更なる推進を図る。	「杉並区子ども読書活動推進計画」の課題である地域のボランティア、学校司書、各学校や地区における組織との連携が進み、さまざまなイベントの開催やブックリストの作成など、協働による取組を数多く実施した。
他機関との連携	B	学校図書館との連携強化を図る。	調べ学習資料の貸出・団体配本・各種コンクール事業は、教員や学校司書と連絡をとりあいながら着実に実施した。
		近隣施設や他課との事業協力を図る。	スポーツ振興課と連携した「オリパイベント」、自殺予防月間・食育週間・リサイクル等、区の他部署の取組と連動した図書展示を行った。「サイエンスフェスタ」「子育てメッセ」等、他課主催のイベントに出展した。
		YA世代を対象としたイベントに区内の高等学校と協力する。	前年度に引き続きYA世代を対象にしたイベントを実施した。イベント後に生徒たちとミーティングを行い、反省点の洗い出しや生徒目線での感想など情報交換も行った。
人材育成・研修計画	B	児童サービス等に関する職員研修会を開催	初任者研修で、児童サービスについての研修を行った。
広報・情報発信	B	報道機関、地域情報誌等を積極的に活用し、事業の広報に努める。	中央図書館の休館に備えて図書館サービスの低下を防ぐため、荻窪地域に設置する臨時図書窓口や、休館期間中の中央図書館の蔵書の取扱い等を広報、ホームページに掲載した他、チラシを館内で配付するなど区民への周知を図った。

図書館評価表(2) 中央図書館

評価項目	指標	算出方法等	28年度実績	29年度実績	30年度実績	前年度との増減率
資料の充実	蔵書冊数(馬橋ふれあい図書室を含む)	実績	750,341	729,687	710,006	97.3%
	購入冊数	実績	22,994	18,965	18,095	95.4%
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	416,403	456,776	454,161	99.4%
	利用登録者数	実績	31,720	32,952	34,111	103.5%
	新規利用登録者数	実績	3,455	3,394	3,389	99.9%
	年間貸出冊数	実績	647,878	630,985	622,118	98.6%
	相互協力貸出冊数	都立図書館等の協力により貸出したもの	834	954	968	101.5%
	団体貸出団体数	団体別登録数	342	355	339	95.5%
	団体貸出冊数	実績	76,791	76,860	76,667	99.7%
レファレンス(調べもの相談)の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	7,189	5,042	7,448	147.7%
講座・講演会・行事の開催 (「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上)	事業実施回数	おはなし会	95	87	117	134.5%
		映画会(一般)	6	4	6	150.0%
		映画会(児童)	12	10	8	80.0%
		一般向け事業(講演会、講座)	10	11	7	63.6%
		児童向け事業(こども会、人形劇)	9	10	8	80.0%
		展示会	97	82	84	102.4%
		その他	9	4	8	200.0%
	事業参加者数	おはなし会	1,323	1,284	1,749	136.2%
		映画会(一般)	187	171	231	135.1%
		映画会(児童)	502	477	275	57.7%
		一般向け事業(講演会、講座)	475	575	391	68.0%
		児童向け事業(こども会、人形劇)	431	413	354	85.7%
		その他	288	223	232	104.0%
		ボランティアとの協働	協働(ボランティア)事業実施回数	協働事業実施回数	52	50
他機関との連携	学校への支援回数(団体貸出を除く)	調べ学習資料貸出	158	166	231	139.2%
		ブックトーク等	12	15	10	66.7%
		職場体験	4	4	3	75.0%
		図書館見学	2	2	2	100.0%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数	実績	114	78	98	125.6%
経費(コスト)	貸出し1冊あたり経費(円)	年間経費÷貸出冊数	781	839.2	790.5	94.2%
	利用者1人あたり経費(円)	年間経費÷入館者数	1,216	1,159.3	1,082.8	93.4%

図書館評価表(1) 永福図書館

評価項目	自己評価	平成30年度の目標	取組結果
資料の充実	A	資料管理要綱・蔵書規模の適正化方針に基づく適切な蔵書管理を行う	蔵書規模の適正化方針に基づく蔵書数の目標値を達成した。
		資料状態・貸出状況を確認しながら慎重に保管替え(開架から保存書架へ、保存書架から開架へ資料の移動)・除籍・リサイクルを行う	除籍・リサイクルに該当する資料を1冊ずつ資料状態・貸出状況の確認を行い適切に管理した。
誰もが利用しやすい図書館に	B	書架案内・書架見出しなどを随時更新し、探しやすい見やすい書架を目指す	一般書新書コーナーを一か所に配置、一般書現代小説の書架見出しの増加、保存庫資料の一部を開架書架へ移動した。
		児童コーナーは幼児・児童の目線を考えた資料配置や装飾を行う	新刊図書コーナー、利用者おすすめ本紹介コーナー、地域の案内コーナー、児童室掲示板を一新、児童コーナー入口上の装飾を季節ごとに変更した。
レファレンス(調べもの相談)の充実	A	レファレンス=調べ物相談であることの周知を図り、聞きやすい雰囲気作りを目指す	レファレンス周知のためバッジを着用、丁寧な利用者への声かけ・調べ物相談対応に努めた。周知徹底まで至らなかったが、調査レファレンスを受ける回数は増え、レファレンス事例が集まりつつある。
		レファレンスコーナーの設置	レファレンスコーナーを3階カウンター横に設置、「調べ物相談・レファレンス」看板の掲示、参考調査レファレンス記録の事例と回答プロセスをスタッフ全員で毎月共有した。
講座・講演会・行事の開催	A	好評な事業の継続実施と新規事業の検討・実施	好評事業(紙芝居上演、寄席、工作会、映画会、朗読会、プラネタリウム、ハンドベル演奏、人形劇、相続について弁護士による講演会)を実施し、新規事業(施設内の落ち葉や虫を採取観察、腸内環境について医師による講演会)も実施した。
		講演会・行事に関連した資料展示とブックトークの実施	講演会・行事に関連した資料を実施会場内に展示、小学生向けに事業開始前にブックトークを実施した。
ボランティアとの協働	B	ボランティア連絡会の定期的な実施	年2回のボランティア連絡会を実施、情報交換や近隣施設へボランティアを紹介した。
		ボランティア全員参加のお話会の実施	スタッフと協働しおはなし会を実施した。
快適な読書空間の整備	B	施設移転へ向け、重要度を考慮し不具合箇所修繕を適切に行う	隣接保育園側の高木を剪定し、館内空調機点検を実施した。
		日常巡回による施設不具合の早期発見、定期清掃以外の気になる箇所の点検・清掃・修繕	定期清掃以外に、カイズカイプキ剪定、空調機薬液分解洗浄、外灯柱塗装、点字ブロック補修、入口上電灯管球交換などを実施した。
子ども読書活動の推進	B	時節に合わせた展示、小学生向け事業の実施	時節行事に合わせた資料展示、季節を感じる事業(福袋、プラネタリウム)、小学生向け事業(読書記録通帳配布、お話会、工作会、落ち葉や虫を採取観察する事業、松庵小学校へ出張工作会)などを実施した。
		近隣中学校と連携したおたよりの発行と情報収集	大宮中学校図書委員とおたより協働作成のほか、職場体験実習生による本の紹介文の展示、大宮中学校生徒作成の絵本展示を実施した。
他機関との連携	B	近隣施設へのお出張お話会の定着を図る	大宮児童館、子ども・子育てプラザ和泉への定期的なお出張おはなし会を実施した。
		近隣施設との連携強化	永福南児童館主催「ゆめパラダイス」(様々な出店の子ども向けイベント)の参加、下高井戸児童館へリサイクル本の提供、杉並和泉学園小学部第2学年全クラスの図書館案内受入れ、済美養護学校の定期的な来館と貸出補助、高円寺・方南図書館3館共同スタンプラリーなどを行った。
人材育成・研修計画	B	研修への積極的な参加と日常業務の調整	中央図書館主催の研修のほか、各種研修(都立図書館製本研修、東京子ども図書館講習会、都立多摩図書館子どもの読書に関する講座、認知症サポーター養成講座、本社研修等)に参加した。
		研修不参加者への研修内容周知の徹底	研修報告書の閲覧、ミーティングでの研修内容の報告を行ったが全ての研修に対し報告を行えなかった。
広報・情報発信	B	おたよりの定期的発行による図書館事業の広報	一般向け、子ども向けのおたよりを毎月発行し、YA向けおたよりを定期的に発行した。
		図書館での他施設の情報発信、他施設での図書館事業の広報	みどり公園課発行の「すぎなみ景観ある区マップ」を館内にて通年配布、お話会チラシを近隣児童館・保育園へ配布、図書館のおたよりを近隣施設での事業実施時に配布するほか、広報スタンド、ゆうゆう館、杉並区のお知らせ掲示板へ事業チラシを配布した。

図書館評価表(2) 永福図書館

評価項目	指標	算出方法等	28年度実績	29年度実績	30年度実績	前年度との増減率
資料の充実	蔵書冊数	実績	122,548	118,531	109,300	92.2%
	購入冊数	実績	7,774	7,544	6,970	92.4%
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	185,421	181,321	189,496	104.5%
	利用登録者数	実績	12,403	13,098	13,425	102.5%
	新規利用登録者数	実績	1,213	1,276	1,331	104.3%
	年間貸出冊数	実績	302,753	295,125	307,616	104.2%
	相互協力貸出冊数	都立図書館等の協力により貸出したもの	547	527	590	112.0%
	団体貸出団体数	団体別登録数	81	130	92	70.8%
	団体貸出冊数	実績	12,349	13,180	12,236	92.8%
レファレンス（調べもの相談）の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	1,790	1,826	1,127	61.7%
講座・講演会・行事の開催 （「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上）	事業実施回数	おはなし会	97	110	109	99.1%
		映画会（一般）	0	1	1	100.0%
		映画会（児童）	0	0	2	-
		一般向け事業（講演会、講座）	5	3	3	100.0%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	2	3	2	66.7%
		展示会	78	76	90	118.4%
		その他	7	5	6	120.0%
	事業参加者数	おはなし会	1,826	1,783	1,841	103.3%
		映画会（一般）	0	13	17	130.8%
		映画会（児童）	0	0	71	-
		一般向け事業（講演会、講座）	262	152	144	94.7%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	65	132	105	79.5%
		その他	828	290	322	111.0%
	ボランティアとの協働	協働（ボランティア）事業実施回数	協働事業実施回数	61	62	57
他機関との連携	学校への支援回数（団体貸出を除く）	調べ学習資料貸出	219	201	154	76.6%
		ブックトーク等	3	3	4	133.3%
		職場体験	5	2	0	0.0%
		図書館見学	4	3	3	100.0%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数	実績	59	47	57	121.3%
経費（コスト）	貸出し1冊あたり経費（円）	年間経費÷貸出冊数	316	337.3	307.8	91.3%
	利用者1人あたり経費（円）	年間経費÷入館者数	515	549.1	499.7	91.0%

図書館評価表(1) 柿木図書館

評価項目	自己評価	平成30年度の目標	取組結果
資料の充実	A	利用者の要望に応えられるよう、幅広い分野において資料収集を行っていく。	ライブラリー新刊情報、その他の新刊情報誌、またパンフレット等の情報を基に幅広いタイトルを購入した。
		子どもの利用者増を図るため、幅広い分野から魅力ある図書を収集していく。	絵本と小学生向けの読み物を中心に資料収集を行った。また児童向けの行事を充実させることにより、子どもの利用者の集客に努めた。
誰もが利用しやすい図書館に	A	館内の案内を見直し、利用者へのわかりやすい案内・表示を行っていく。	初めての来館者にも利用しやすい図書館であるよう館内案内を見直し、カウンター正面の児童書、一般書の表示を新たに作成した。
		利用者に声をかけるようにして、親切で利用しやすい図書館を目指す。	来館者に積極的に声をかけるようにして、親しみやすく居心地の良い空間をつくるよう配慮しながら接客に心掛けた。
レファレンス(調べもの相談)の充実	B	レファレンス研修などに参加させ、職員の技術向上を図れるよう配慮する。	中央図書館のレファレンス研修に2名を参加させ、内容について職場会にて報告を行った。職員一人一人が、図書館員の自覚を持ち、レファレンス業務に当たっている。
		調査的レファレンスについて事例を残し、職員間での共有を図る。	カウンター日誌にレファレンス事例を記入し、その記録を残すことにより、誰もが事例を共有することができるようにしている。
講座・講演会・行事の開催	B	本の展示について、年間を通した企画・計画を立てて実施していく。	様々な題材をもとに本の展示を行うことにより、利用者幅広いジャンルに興味を持ってもらい、その本を手にとってもらえるよう考えて行った。
		利用者増に結び付けることができるよう、テーマを決めて講演会等の事業を行っていく。	当館の重点課題である「福祉・医療」をテーマに、昨年に引き続き、「日常生活における健康について考える」と題して講演会を行った。また児童行事は年間を通して計画的に実施することができた。
ボランティアとの協働	B	地域の人材を積極的にボランティアとして活用する。	児童行事を中心にボランティアの活用を行っている。お話し会、あかちゃんタイムは主にボランティアの方が中心となって運営している。今後も職員と連携を図りながら行っていく。
快適な読書空間の整備	B	館内の読書環境を整え、利用しやすい図書館づくりをしていく。	緑の多い閑静な住宅街の中にある図書館として、落ち着いた雰囲気を活かした環境を提供できるよう心掛けている。館内空調は、室温計をこまめに確認しながら温度調節を行っている。座席も古い椅子を新しいもの買い替えるなどして、環境整備を行った。
		館内の巡回を行い、利用者の安全に十分注意して館運営を行なっていく。	中央図書館及び区役所本庁からの情報により、適切に館内巡回を行い、安全確保に努めた。
子ども読書活動の推進	A	子どもたちが図書館に親しみを感じ、読書に興味を持ってもらえるような事業展開を図る。	児童書の充実を図るため、読み物、絵本の購入、買い替えを進めている。また1年を通して様々な子ども向け事業を展開することにより、来館者増を図っている。
		お話し会やあかちゃんタイムを通じて子どもたちに本の魅力を伝え、図書館利用の促進を図る。	お話し会、あかちゃんタイムはボランティアを中心に、職員と協働して行っている。特にあかちゃんタイムは、今年度従事のボランティアが1名加わり、より充実した時間を過ごしてもらえたことにより、参加者の増が図られた。
他機関との連携	A	近隣の小学校と連携し、新1年生に図書館見学にきてもらい、図書館利用の促進を図る。	四宮小学校、三谷小学校の2校の1年生に来館してもらい、図書館の使い方や、お話し会を行うことにより、図書館への興味を持ってもらい、利用促進につながれたと考えている。
		近隣の小学校にブックトークに出かけ、読書の楽しさを伝えることに力を入れていく。	近隣小学校の1年生、2年生を対象にブックトークを実施している。様々なテーマで、本を紹介することによって、より一層本に興味を持ってもらい、読書活動の援助ができたと考えている。
人材育成・研修計画	B	館内整理日を利用して、OJTを行うなどして、職員の図書館員としての技術向上を図る。	新人研修は年度当初の館内整理日に実施し、より早くカウンター業務をはじめ、館運営のためのノウハウを取得してもらうようにした。
		中央図書館の研修に派遣し、図書館員としての技術力向上を目指す。	中央図書館のレファレンス研修に2名を派遣し、研修の成果を館内整理日や、職員間の回覧等で共有することにより、全員の技術向上を図ることができた。
広報・情報発信	A	広報紙「かきのき」「まめがき」を定期的に発行することにより、事業案内や本の紹介を行っていく。	広報紙「かきのき」「まめがき」は年間を通して計画的に発行することができた。新刊本の紹介や、事業のお知らせを中心に作成・発行した。
		図書館キャラクター「かき丸」を使い、親しみやすい広報を行うとともに、館内表示にも活用していく。	特に児童コーナーの表示は「かき丸」を使って親しみやすい案内をしている。また、1階正面カウンターの館内表示を「かき丸」を使ったものにした。

図書館評価表(2) 柿木図書館

評価項目	指標	算出方法等	28年度実績	29年度実績	30年度実績	前年度との増減率
資料の充実	蔵書冊数	実績	114,227	113,172	111,657	98.7%
	購入冊数	実績	7,456	7,074	6,897	97.5%
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	164,829	159,815	164,268	102.8%
	利用登録者数	実績	8,761	8,995	9,105	101.2%
	新規利用登録者数	実績	726	818	800	97.8%
	年間貸出冊数	実績	247,815	249,387	255,405	102.4%
	相互協力貸出冊数	都立図書館等の協力により貸出したもの	303	402	377	93.8%
	団体貸出団体数	団体別登録数	55	58	55	94.8%
	団体貸出冊数	実績	14,063	14,251	14,479	101.6%
レファレンス（調べもの相談）の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	993	501	940	187.6%
講座・講演会・行事の開催 （「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上）	事業実施回数	おはなし会	59	60	65	108.3%
		映画会（一般）	1	1	0	0.0%
		映画会（児童）	0	0	0	-
		一般向け事業（講演会、講座）	1	1	1	100.0%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	2	2	1	50.0%
		展示会	24	24	24	100.0%
		その他	8	8	6	75.0%
	事業参加者数	おはなし会	437	577	854	148.0%
		映画会（一般）	18	5	0	0.0%
		映画会（児童）	0	0	0	-
		一般向け事業（講演会、講座）	19	15	12	80.0%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	66	73	33	45.2%
		その他	1,055	909	1,150	126.5%
		ボランティアとの協働	協働（ボランティア）事業実施回数	協働事業実施回数	45	36
他機関との連携	学校への支援回数（団体貸出を除く）	調べ学習資料貸出	17	8	8	100.0%
		ブックトーク等	28	17	28	164.7%
		職場体験	1	1	1	100.0%
		図書館見学	4	3	2	66.7%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数	実績	40	39	37	94.9%
経費（コスト）	貸出し1冊あたり経費（円）	年間経費÷貸出冊数	556	546.2	545.0	99.8%
	利用者1人あたり経費（円）	年間経費÷入館者数	835	852.3	847.4	99.4%

図書館評価表(1) 高円寺図書館

評価項目	自己評価	平成30年度の目標	取組結果
資料の充実	B	図書館の移転・改築を見据え、所蔵する資料の点検・評価を実施し、蔵書の適正化を進める。	単に蔵書を削減するだけではなく、出版事情を考慮しながら各分野からなるべく偏りのないように新刊図書を選定し、購入した。
		利用者満足度調査で低評価となった文庫コーナーを見直す。	蔵書内容を精査し、充実するように努めた。利用者が探しやすい・見やすい文庫コーナーを目指した。
誰もが利用しやすい図書館に	B	書架見出しや誘導サインをさらに工夫する。	職員の手作りにより、見出し・案内サインを更新した。
		傷みのひどい利用者用椅子、机などの取替・修繕を行う。	区立施設(廃止施設)で不用になった椅子を読書室パソコンコーナーで再利用した。次年度は中央館改修に伴う不用物品を活用し、YAコーナーの椅子・書架などを更新する。
レファレンス(調べもの相談)の充実	B	レファレンス記録を取り、館内レファレンス研修を実施する。	毎月の職場会ではベテラン職員が当館で受けたレファレンス事例を基に、その解説・説明を行った。事例によっては、新人を業務端末機前に集めて丁寧に説明を行った。
		レファレンスを受ける体制を整える。	レファレンス技術の向上は、職員の意欲に左右される面が大きい。特に新人職員に対しては、少しでも意欲を高められるように環境を整えた。
講座・講演会・行事の開催	A	おはなし会、講演会、人形劇、寄席や「杉並区ゆかりの文化人」DVDの上映会を実施する。	開催事業に関連した館内展示も行った。図書館は幅広い年齢層が利用するので、今年度は特に一般向け事業について集客を意識して企画を立てた。
		近隣地域図書館と連携した協働事業を実施する。	「なつやすみ読書チャレンジ」事業を、隣接の方南図書館、永福図書館と3館相互乗り入れ方式により開催した。
ボランティアとの協働	A	ボランティア団体と協働事業を開催し、ボランティア団体への支援・育成に繋げる。	人形劇や寄席などもボランティア団体との協働事業として講座室で実施し、地域図書館のPRを図った。各団体とは良好な関係が築けている。
快適な読書空間の整備	B	利用者が気持ちよく利用できるような館内巡回を実施する。	安心安全の観点から日々の館内見回りを確実に実施した。特に児童・生徒の安全を考慮し、YAコーナーに不審者対策用の防犯カメラを新設した。
		老朽地域館だが、YAコーナーのイメージアップを図り、若い人に足を運んでもらえるようにする。	YAコーナーについては、中高生が快適な空間として利用出来るようにレイアウトを変更し、床タイルの全面張替や開架図書の配置見直しを行った。YA向け新刊本の買い増しなども行い、工夫した。
子ども読書活動の推進	A	児童書については引き続き団体貸出対応として、古典定番書籍の複本化を進める。	絵本を中心に買い替えを行った。前年度除籍廃棄を進めて品薄になった調べ学習分野の書籍も意識して購入した。中央館改修に伴い、杉六・杉十小の団体貸出受持ち学年数が増えるので、今年度はその対応を考慮し、買い替えを行った。
		「図書館探検」事業を新規に実施する。	普段見ることの出来ない館内バックヤードの案内や図書館業務の体験を織り交ぜ、図書館に少しでも興味をもってもらえるように工夫し、実施した。
他機関との連携	A	団体貸出など学校図書館への支援を行う。生徒の図書館見学、職場体験も積極的に受け入れる。	職場体験時には実習生にPOPを作成してもらい、YAコーナーに展示した。また同コーナーの蔵書構成についても実習生の意見を参考にして工夫した。
		関係する公立学校図書館司書との意見交換会を開催する。	図書館資料が学習の場でも有効に活用できるように公立学校図書館司書との連携を強化した。
人材育成・研修計画	B	館内整理日にレファレンス事例や問題となった事務処理事例を紹介し、全員で情報共有を図る。	館内整理日だけでなく、時間の限られた朝の打ち合わせ時にもワンポイントOJTを実施し、情報共有を図った。
		専門研修に参加する。	中央館で実施した外部講師による図書館接遇研修、レファレンス研修、レファレンス研修データベース編に複数の職員が参加した。
広報・情報発信	A	「広報すぎなみ」や区公式HP、図書館HPを使用した情報の発信を行う。	「広報すぎなみ」に掲載することで、館内掲示や図書館HPに比べ、普段図書館を利用しない区民にも情報発信ができた。
		ポスター配布だけではなく、地域団体が作成するイベントカレンダーに掲載してもらい周知を図る。	ちらし発行後の事業の変更・修正・追記などは、高円寺地域教育推進協議会のホームページのお知らせ欄を活用して最新情報を反映させた。

図書館評価表(2) 高円寺図書館

評価項目	指標	算出方法等	28年度実績	29年度実績	30年度実績	前年度との増減率
資料の充実	蔵書冊数	実績	142,184	128,631	120,796	93.9%
	購入冊数	実績	7,736	7,469	6,737	90.2%
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	197,407	204,920	221,164	107.9%
	利用登録者数	実績	14,439	15,147	16,175	106.8%
	新規利用登録者数	実績	2,031	1,848	1,858	100.5%
	年間貸出冊数	実績	257,110	253,988	251,235	98.9%
	相互協力貸出冊数	都立図書館等の協力により貸出したもの	475	452	375	83.0%
	団体貸出団体数	団体別登録数	66	72	73	101.4%
	団体貸出冊数	実績	17,518	17,514	18,834	107.5%
レファレンス（調べもの相談）の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	2,632	1,709	2,055	120.2%
講座・講演会・行事の開催 （「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上）	事業実施回数	おはなし会	68	70	71	101.4%
		映画会（一般）	1	3	5	166.7%
		映画会（児童）	0	0	0	-
		一般向け事業（講演会、講座）	2	4	3	75.0%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	5	6	5	83.3%
		展示会	57	68	75	110.3%
		その他	5	14	11	78.6%
	事業参加者数	おはなし会	966	907	814	89.7%
		映画会（一般）	16	32	48	150.0%
		映画会（児童）	0	0	0	-
		一般向け事業（講演会、講座）	51	128	140	109.4%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	182	233	190	81.5%
		その他	158	939	1,294	137.8%
		その他				
ボランティアとの協働	協働（ボランティア）事業実施回数	協働事業実施回数	73	61	62	101.6%
他機関との連携	学校への支援回数（団体貸出を除く）	調べ学習資料貸出	129	134	120	89.6%
		ブックトーク等	7	8	8	100.0%
		職場体験	3	3	2	66.7%
		図書館見学	3	2	1	50.0%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数	実績	24	61	52	85.2%
経費（コスト）	貸出し1冊あたり経費（円）	年間経費÷貸出冊数	576	592.0	599.6	101.3%
	利用者1人あたり経費（円）	年間経費÷入館者数	751	733.8	681.1	92.8%

図書館評価表(1) 宮前図書館

評価項目	自己評価	平成30年度の目標	取組結果
資料の充実	A	YAコーナーの充実	2階YAコーナーの拡充は終了。同コーナーに進路・進学のコナーを設置。また3階ホールにYA用リサイクルコーナー、読書室内に参考資料コーナーを設置した。
		蔵書適正化による除籍作業について、偏りのないよう蔵書のバランスを保つ。	昨年に引き続き、蔵書適正化の作業を進めている。偏りのないように作業を進めている。児童書は団体貸出担当校が来年度増えるので、除籍量を少々抑えることとした。
誰もが利用しやすい図書館に	B	利用されやすい案内や掲示物の整理および改装	状態が劣化しているものは新たに作成、また利用者より指摘があったものについて変更および修正作業を行った。
		館内設備の充実	中2階のスペースを有効的に使い、資料展示や座席設置などを行った。また、新たにチラシスタンドを設置することで、利用者に情報発信しやすい環境を整えた。
レファレンス(調べもの相談)の充実	B	利用者インターネットPCのデータベース活用アピールと利用促進	利用者用インターネットパソコンが設置されている座席の壁面にデータベースに関する案内パネルを設営。利用案内を座席に設置する。
		宮前図書館における杉並地域資料の再整備	杉並地域資料専用の書架を新たに設置しようと考えているので、その準備として地域資料棚の整理を始める。利用者のニーズを探りつつ、選書を行った。
講座・講演会・行事の開催	A	幅広いジャンルを念頭においた講座開催	今年度も継続している講座に加え、初めて行う朗読会や身体を使った健康講座など幅広いジャンルの講座を開催することが出来た。
		杉並に関係する人、事、ものについての講座開催	杉並区に関わる方に講座やワークショップを行っていただくことで、地域に対する興味を向上させた。
ボランティアとの協働	B	おはなし会等児童事業に関わるボランティアとの連携強化	それぞれの会(おはなし会、わらべうた、リミックなど)を担当していただいているボランティアの方々と開催日前にミーティングを行い、より楽しいものにすることが出来た。
快適な読書空間の整備	B	館内外の美化に努め、読書環境を整える	館内(館外)に植物や椅子を設置することで、快適な読書空間の構築を目指した。利用者からのご意見もあり、今後も利用者のニーズに応じた空間形成を続けていく。
		館内定期巡回による施設点検と安全確認	今年度大きく破損する箇所はなかったが、いつ破損してもおかしくないぐらい古いものもあるので、定期的なチェックを行った。
子ども読書活動の推進	A	子どもイベントの充実と展開	今年度開催のイベント(こわいおはなし会等)とワークショップへ数多く参加していただき、図書館利用者に認知されていることもわかり、充実したものとなった。
		宮前図書館オリジナルキャラクターを活用した読書推進活動	オリジナルキャラクターを活用することで、図書館に興味を持ってもらい、それに付随したイベントや展示をして読書推進活動とした。
他機関との連携	B	近隣施設や団体主催イベントへの参加やそれぞれの施設との情報共有およびネットワークの強化	例年どおり、イベントに参加するもの、資料提供(リサイクル資料)するもの、団体貸出等、順調に行った。来年度は他施設の事業に参加する計画が進行中である。
人材育成・研修計画	A	内部育成の見直し(館内研修等)	図書館員の役割について、基盤となるものはどのスタッフにも担ってもらい、その能力のボトムアップを図った。また館内整理日での情報共有を行った。
		外部研修への積極的な参加とフィードバック	中央図書館や都立図書館、本社で行う研修には積極的に参加した。また館に情報を持ち帰ることで、他のスタッフと情報共有が可能となった。
広報・情報発信	A	Twitter活用の効果的な情報発信の模索	Twitterは毎日更新し続けることが大切である。開館時間や館の様子、イベントの告知を発信することで利用者の反応を知るための手段が増えた。
		広報・HP・ポスター・チラシによる情報発信の強化	広報やHP、ポスターやチラシを使用した情報発信を効果的に行うことで、館で行う事業の参加促進につなげることが出来た。

図書館評価表(2) 宮前図書館

評価項目	指標	算出方法等	28年度実績	29年度実績	30年度実績	前年度との増減率
資料の充実	蔵書冊数	実績	137,015	129,802	126,483	97.4%
	購入冊数	実績	7,648	7,358	7,041	95.7%
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	242,034	232,327	237,631	102.3%
	利用登録者数	実績	13,855	14,377	14,669	102.0%
	新規利用登録者数	実績	1,309	1,443	1,342	93.0%
	年間貸出冊数	実績	401,548	390,189	398,674	102.2%
	相互協力貸出冊数	都立図書館等の協力により貸出したもの	643	621	627	101.0%
	団体貸出団体数	団体別登録数	100	101	104	103.0%
	団体貸出冊数	実績	15,124	16,300	16,157	99.1%
レファレンス（調べもの相談）の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	3,840	3,336	2,566	76.9%
講座・講演会・行事の開催 （「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上）	事業実施回数	おはなし会	72	71	71	100.0%
		映画会（一般）	0	0	0	-
		映画会（児童）	1	1	1	100.0%
		一般向け事業（講演会、講座）	15	13	20	153.8%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	8	6	2	33.3%
		展示会	32	35	29	82.9%
		その他	19	21	26	123.8%
	事業参加者数	おはなし会	1,598	1,555	1,581	101.7%
		映画会（一般）	0	0	0	-
		映画会（児童）	30	49	47	95.9%
		一般向け事業（講演会、講座）	420	385	549	142.6%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	358	242	177	73.1%
		その他	641	526	812	154.4%
		ボランティアとの協働	協働（ボランティア）事業実施回数	62	53	39
他機関との連携	学校への支援回数（団体貸出を除く）	調べ学習資料貸出	83	137	156	113.9%
		ブックトーク等	0	0	0	-
		職場体験	5	6	5	83.3%
		図書館見学	3	3	3	100.0%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数	実績	94	80	81	101.3%
経費（コスト）	貸出し1冊あたり経費（円）	年間経費÷貸出冊数	242	258.5	241.4	93.4%
	利用者1人あたり経費（円）	年間経費÷入館者数	401	434.2	405.0	93.3%

図書館評価表(1) 成田図書館

評価項目	自己評価	平成30年度の目標	取組結果
資料の充実	B	分担収集7門(芸術・芸能・映画・スポーツ分野)の収集	各分野の最新資料を購入し、魅力ある書架に近づけた。
		児童書について、ロングセラー本と外国文学の除籍・買い替え。またヤングアダルト分野の収集。	「ゾロリシリーズ」「ネズミくんのチョコキ」等買い替えた。ヤングアダルトは全分野買い足した。
誰もが利用しやすい図書館に	B	館内表示改善	カウンター床面に矢印を表示、利用者が並び易くなった。
		レイアウト見直し	児童雑誌を児童コーナーへ移動、探し易くした。また杉並資料コーナーを刷新した。
レファレンス(調べもの相談)の充実	A	職員スキル向上のための外部研修参加	文部科学省、都立図書館等主催の各研修へ参加した。
		レファレンス記録の活用、フィードバックを目的とした自主研修の企画・実施	外部研修の参加者による独自の研修を実施、全スタッフのスキルアップに繋がった。
講座・講演会・行事の開催	A	利用者のニーズに合わせた企画の実施	映画会を毎月開催、別に親子向けにも3回実施した。また好評を博すイベントの他、ボードゲーム等新企画を実施、来館者増となった。
ボランティアとの協働	B	赤ちゃんタイム、おはなし会での協働、情報共有	毎月のおはなし会等に加え、各シーズンイベントでも協働が図れた。
		ボランティア団体との懇談会実施	反省や改善案など次年度に繋がる意見交換が全団体と実施できた。
快適な読書空間の整備	B	閲覧スペースの充実	2階集会室を閲覧スペースとして開放した。静粛利用を促すマナーを改めて掲示した結果、大きなトラブルも無かった。
		蚊対策の継続実施	害虫駆除と並行し防虫器具を設置、被害報告は殆ど無かった。
子ども読書活動の推進	A	利用者増加のための児童参加型イベントの実施	新規のイベントを実施した他、親子で楽しむ映画会を3度実施、最終回では50名に近い親子連れに来館頂けた。
他機関との連携	B	学校司書との連携による、読書に繋がる事業の実施	東田中学校司書・生徒と一緒に、図書館内の展示企画を行うとともに、活動した内容を掲載した広報紙の発行を行った。
		公共機関の発掘と地域イベントの参加	児童館まつりや子育てネットワーク事業に参加、読み聞かせ実践等で図書館の魅力を発信した。
人材育成・研修計画	A	スキルアップ研修への参加ならびに実施	30以上の外部研修へ参加し、フィードバック研修も実施した。
		司書率73%達成	資格保有者登用で概ね8割台となり、より専門的対応が可能となった。
広報・情報発信	B	図書館だよりの発行、広報すぎなみとHPへの情報発信	図書館だよりは一般・児童向けに毎月2誌発行、広報・HPで各イベントを紹介した。
		館内広報の充実	美術展等分担収集分野の芸術関係の広報に特に力を入れた。

図書館評価表(2) 成田図書館

評価項目	指標	算出方法等	28年度実績	29年度実績	30年度実績	前年度との増減率
資料の充実	蔵書冊数	実績	101,162	98,534	98,659	100.1%
	購入冊数	実績	7,289	6,785	6,244	92.0%
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	194,000	180,626	197,068	109.1%
	利用登録者数	実績	10,480	10,887	11,037	101.4%
	新規利用登録者数	実績	985	986	1,034	104.9%
	年間貸出冊数	実績	300,103	282,031	315,364	111.8%
	相互協力貸出冊数	都立図書館等の協力により貸出したもの	579	467	405	86.7%
	団体貸出団体数	団体別登録数	80	78	80	102.6%
	団体貸出冊数	実績	13,361	13,518	13,890	102.8%
レファレンス（調べもの相談）の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	1,110	717	1,015	141.6%
講座・講演会・行事の開催 （「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上）	事業実施回数	おはなし会	71	67	85	126.9%
		映画会（一般）	3	9	13	144.4%
		映画会（児童）	0	2	3	150.0%
		一般向け事業（講演会、講座）	17	21	16	76.2%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	5	5	6	120.0%
		展示会	77	64	55	85.9%
		その他	0	2	3	150.0%
	事業参加者数	おはなし会	1,139	1,208	1,292	107.0%
		映画会（一般）	24	125	191	152.8%
		映画会（児童）	0	47	69	146.8%
		一般向け事業（講演会、講座）	256	288	196	68.1%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	130	108	261	241.7%
		その他	0	108	80	74.1%
		ボランティアとの協働	協働（ボランティア）事業実施回数	協働事業実施回数	51	47
他機関との連携	学校への支援回数（団体貸出を除く）	調べ学習資料貸出	78	81	94	116.0%
		ブックトーク等	0	0	4	-
		職場体験	10	5	14	280.0%
		図書館見学	3	0	13	-
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数	実績	51	63	49	77.8%
経費（コスト）	貸出し1冊あたり経費（円）	年間経費÷貸出冊数	262	290.5	246.0	84.7%
	利用者1人あたり経費（円）	年間経費÷入館者数	405	453.6	393.6	86.8%

図書館評価表(1) 西荻図書館

評価項目	自己評価	平成30年度の目標	取組結果
資料の充実	B	資料管理計画に基づく、除籍作業と新規購入による資料の充実	当館所蔵の区内1冊本は保存し、その他の利用の少ない図書は除籍した。さらに、新刊本の購入や利用の多い図書の買い替えも行き、除籍作業を進めた。
		保存書庫資料の除籍・保管替えの継続実施(6類産業から9類文学)	保存書庫資料から除籍本の選定を行い、区内1冊本については、中央図書館へ送付した。
		調べ学習や団体貸出に利用する資料の充実	調べ学習関連資料として、伝統芸能などの科学技術関連本を購入した。来年度は、小学校の団体配本の対象クラスが増えるため除籍冊数を予定より少なめにした。
		書架の配架スペースの見直し(3類社会科学)	わかりやすさを優先、区切りの良い範囲内で配架スペースを調整した。空いたスペースは、本の面を見せる展示スペースとして利用した。
誰もが利用しやすい図書館に	A	館内サイン見直しの継続	雑誌コーナーの雑誌タイトルの見出しや、閲覧席の利用カードの文字を大きく作り換え見やすいものにした。
		夏休み調べ学習室の開設	利用者を増やすため、夏休み前の学校司書連絡会においてPRの協力をお願いした。これにより、学校との連携も取れ、利用増につながった。(26日間284名)
		利用しやすい書架の工夫	書架の1番上の段は、極力使用しないよう配架調整を行った。高い段を一部利用している2類書架等は、職員がお手伝いする旨の張り紙を掲示して対応した。
レファレンス(調べもの相談)の充実	A	研修に参加できる職場体制作りと、レファレンス力向上のための研修参加	中央図書館開催の研修には、交代で職員を派遣した。受講者が、他の職員に研修内容の報告会を行ったことにより、職員全員のスキルアップに繋がった。
		夏休みに向け、児童書用レファレンス研修の実施	新人職員向けに児童担当職員が講師となり、図書館専用ポータルサイトの検索方法や、子どもからの質問内容の聞き取り方などの研修を実施した。
		館内事例収集と、その活用	窓口で受けたレファレンス内容を、毎月の職場会で紹介した。事例の紹介で、職員間の情報共有ができ、夏休みなど似た質問の多い時期は実践に生かすことができた。
講座・講演会・行事の開催	B	地域の人々や団体と連携した講演会等の実施	地域団体と連携して行っている講演会「西荻アカデミア」は、各国の文学についての講演をシリーズ化して開催した。来年度も開催予定である。
		好評な事業の継続	大人のためのおはなし会、朗読会を開催した。子供向けのお話が多い中、大人向けのお話は貴重な機会を楽しみにしているとの意見を頂いた。
		地域の人たちへ発表の場の提供	西荻地域在住者が所属している、杉並江戸落語研究会の上演や西荻図書館利用者を講師とした子供向け行事など発表の場を提供できた。
ボランティアとの協働	A	ボランティアとの連携強化を図るため、情報交換会を開催	今年度は全体での開催は行わず、数グループと個別に懇談を行った。事業開催の相談や要望等を聞くことができ、次年度の事業にもつながった。
		活動の場の提供及びボランティアによるおはなし会・朗読会の開催	定例おはなし会などの児童行事の他、「大人向けストーリーテリング」、外国の方をお迎えしての「クリスマス行事」など、工夫した行事を開催できた。
快適な読書空間の整備	A	館内巡回の継続、定期的な点検による館内設備の見直し	館内の巡回で秩序を維持するとともに、館内設備の不具合に素早く対応できた。玄関正面の階段下の空きスペースも、危険がないように整備した。
		YAコーナーの充実	毎月テーマを決めYA世代向けの本を展示した。また、「YA新聞」の掲示や、「中学生が選んだおすすめの本」の展示等コーナーの充実を図った。
		児童コーナーの改善	「分類見出し」や「著者見出し」の見直しを行った。絵本の書架は、日本のお話、外国のお話と各コーナーを色分けすることでわかりやすくした。
子ども読書活動の推進	A	「あかちゃんタイム」や定例おはなし会など親子で参加できる事業の充実	参加者の減少が見られた「あかちゃんタイム」、「こどもの広場」などは、児童館にちらし・おたよりを配布したり、「あかちゃんタイム」の中で、子どもセンターに子育て支援の情報提供や個別相談をってもらうことで参加者が増えた。
		小学生が参加できる事業の継続	夏休みの「工作会」、「夏休みスタンプラリー」、「つくる！ミュージアム」、「人形劇」などを開催。おはなし会では、小学生を対象にした英語絵本のおはなし会は好評だった。
		中学生協力による行事の開催	「荻窪中学校生徒によるおはなし会」、荻窪中学校生徒達が図書を紹介するために作成した壁新聞の掲示、近隣の中学生のおすすめ本の展示などを行った。
		行事に関連した展示の実施	「児童文学講座」はいとうひろし先生著作の展示、夏休み「工作会」は、工作の本、小学生親子を対象にした「つくる！ミュージアム」は、博物館に関する本を展示した。
他機関との連携	B	近隣小中学校との連携	図書館バッグ配布を兼ねた新1年生の図書館見学、夏休みスタンプラリー、荻窪中学校生徒のおはなし会、荻窪中学校生徒が作成した壁新聞の掲示等で連携を図った。
		東京女子大学の協力による講演会の開催	開催後のアンケートでは、「素晴らしい講演内容で感動しました」といった声があり、参加者の満足度は高かった。
		近隣関係機関との連携	保育園、児童館、子どもセンターと連携、協力して事業を開催した。地域子育てネットワークでは、関係機関と連携しネットワークニュースを発行した。
人材育成・研修計画	A	各種研修への積極的な参加	杉並区・中央図書館・都立図書館・民間など様々な研修に参加、報告会を行い皆で情報を共有し力量アップを図ることができた。
		職場内OJTによる、全体の力量アップ	新規異動者とベテラン職員を組ませ、1か月間集中して窓口業務のOJTを行った。窓口業務再確認のための研修を行い、各自日頃の疑問点を挙げて話し合うなど、窓口トラブル軽減へ向けて取り組んだ。
広報・情報発信	B	広報すぎなみ、図書館HPへの掲載	事業PRのため、確実に広報・HPには掲載した。その他、地域の子育てネットワークニュースに2回、地域区民センター広報誌に1回記事を掲載した。
		広報誌(おたより)発行の継続	毎月のおたよりの他、新たに「にしおぎYA新聞」を夏・冬2回発行した。この新聞は、学校でも取り上げていただき、なお一層のPRに繋がった。
		近隣施設への事業PRチラシの配布	児童館の事業に参加し、図書館事業のPRチラシを配布した。また、中高年向け事業は近隣の区民センターやゆうゆう館にもチラシを持参し掲示を依頼した。

図書館評価表(2) 西荻図書館

評価項目	指標	算出方法等	28年度実績	29年度実績	30年度実績	前年度との増減率
資料の充実	蔵書冊数	実績	146,393	138,939	135,698	97.7%
	購入冊数	実績	7,429	6,986	6,484	92.8%
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	176,924	190,074	196,805	103.5%
	利用登録者数	実績	13,973	14,141	14,226	100.6%
	新規利用登録者数	実績	1,073	1,210	1,119	92.5%
	年間貸出冊数	実績	288,960	308,633	312,496	101.3%
	相互協力貸出冊数	都立図書館等の協力により貸出したもの	587	660	593	89.8%
	団体貸出団体数	団体別登録数	44	44	46	104.5%
	団体貸出冊数	実績	10,195	11,431	9,872	86.4%
レファレンス（調べもの相談）の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	1,251	1,775	1,615	91.0%
講座・講演会・行事の開催 （「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上）	事業実施回数	おはなし会	110	122	136	111.5%
		映画会（一般）	1	3	1	33.3%
		映画会（児童）	0	0	1	-
		一般向け事業（講演会、講座）	5	6	6	100.0%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	7	6	7	116.7%
		展示会	38	48	43	89.6%
		その他	45	19	26	136.8%
	事業参加者数	おはなし会	1,291	1,393	1,647	118.2%
		映画会（一般）	20	33	31	93.9%
		映画会（児童）	0	0	52	-
		一般向け事業（講演会、講座）	168	216	203	94.0%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	383	343	372	108.5%
		その他	240	299	971	324.7%
		ボランティアとの協働	協働（ボランティア）事業実施回数	協働事業実施回数	106	129
他機関との連携	学校への支援回数（団体貸出を除く）	調べ学習資料貸出	25	15	31	206.7%
		ブックトーク等	0	0	0	-
		職場体験	4	4	4	100.0%
		図書館見学	3	6	4	66.7%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数	実績	83	67	84	125.4%
経費（コスト）	貸出し1冊あたり経費（円）	年間経費÷貸出冊数	540	521.3	478.5	91.8%
	利用者1人あたり経費（円）	年間経費÷入館者数	883	846.5	759.8	89.8%

図書館評価表(1) 阿佐谷図書館

評価項目	自己評価	平成30年度の目標	取組結果
資料の充実	A	除架・除籍の推進・手に取りやすい書架作り	約14,000冊の除籍を実施した。空いた書架には手の届かない高い位置にあった本を移動した。
		児童書の収集と整理	傷みが激しい本を中心に買い替えを行った。大型絵本としかけ絵本の利用促進の配置換えや、おんがく・ことばジャンルの絵本の見出しの刷新をした。
誰もが利用しやすい図書館に	B	バリアフリーを考える事業の実施	手話を使ったおはなし会が4年目になり、親子で参加できる恒例行事となっている。映画会は「障がい者スポーツ」、「LGBT」、「地域との交流」等をテーマに実施した。
		熱中症予防講座、認知症サポーター養成講座の受講	職員向け熱中症講座は実施した。症状や対策の理解が深まり、猛暑の際も全員の共有知識として対応策の申し送りが出来た。館内整理日には課題となっていた書架移動、除籍、備品整理等を優先して実施し、認知症サポーター講座は次年度に延期とした。(2019年7月に実施済み)
レファレンス(調べもの相談)の充実	A	館内レファレンス研修の実施	阿佐谷図書館の特色である阿佐ヶ谷文士村についてのレファレンス研修を行った。基礎知識の確認や質疑応答を行った。
		中学校との協働ブックリストの発行	近隣中学校4校と連携し、協働ブックリスト「中学生によるおすすめ本2019」を発行し、生徒に配布した。
講座・講演会・行事の開催	A	阿佐ヶ谷文士村に関する事業の開催	太宰治作品の朗読会を行った。また阿佐ヶ谷文士村ガイド「文学のあしあと2019」を500部配布し、文士村を知らない人にも興味をもってもらえるようPRした。
		ビジネス書読書会の開催	ワークショップ形式のビジネス書読書会を開催した。参加者同士が話したり、書いたものを発表しあったりする為、世代を超えて交流できる場となった。
ボランティアとの協働	B	読み聞かせボランティアによるおはなし会・朗読会開催	毎月4回ボランティアによる定例のおはなし会を行った。その他、おとなのためのおはなし会や、親子向けのおはなし会フェスタ、怪談おはなし会等を協働で実施した。
		読み聞かせボランティア向け研修の実施	現在活動いただいているボランティアの皆様には、参加者の都合などで調整がつかなかった。
快適な読書空間の整備	A	閲覧席のレイアウト	混み合う雑誌と新聞コーナーにテーブルを設置した。椅子のみだった閲覧コーナーにもテーブルを増やし調べものをし易くした。
		備品の見直し	閲覧席、事務用共に老朽化した椅子を廃棄して交換した。故障していたブラインドの付け替え工事をした。返却本専用棚と児童イベント用ジョイントマットを購入した。
子ども読書活動の推進	A	中学生によるおはなし会と中学校での出張講座の開催	中学生による「夏がいっぱいニンジャおはなし会」を実施した。近隣2校に出張して「POP講習会」を開催し、完成したPOPと本で展示会を行った。
		デジタルえほん体験事業の実施	デジタルえほんを使ったおはなし会を行った。カウンターで受付をし、希望者にデジタルえほんを貸し出し、実際に体験して頂いた。
他機関との連携	A	近隣の4つの中学校との連携	職場体験、おはなし会実施、POP講習会、おすすめ本ブックリスト作成など、様々な形で連携した。
		杉並区産業振興センターとの連携	毎月第二土曜日に、「経営相談会」を実施した。
人材育成・研修計画	B	館内研修の実施	カウンター接客の業務研修、環境・省エネプラン研修、情報セキュリティマネジメント研修、レファレンス研修(テーマ:文士村の基礎知識)を行った。
		専門研修の受講	児童図書館研究会主催の「ワンオペ育児の現状と図書館にできること」や東京都図書館研究交流会主催の「高齢社会における図書館サービス」等の研修に参加した。
広報・情報発信	C	教育機関以外への広報活動を推進	消費者センター助成事業のイベント「ちりめんモンスターを探せ！」を実施する中で消費者センターと連携して広報活動を推進した。

図書館評価表(2) 阿佐谷図書館

評価項目	指標	算出方法等	28年度実績	29年度実績	30年度実績	前年度との増減率
資料の充実	蔵書冊数	実績	145,920	141,048	128,029	90.8%
	購入冊数	実績	7,867	7,296	6,774	92.8%
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	238,707	234,512	230,630	98.3%
	利用登録者数	実績	13,947	14,249	14,598	102.4%
	新規利用登録者数	実績	1,395	1,368	1,354	99.0%
	年間貸出冊数	実績	321,429	318,927	323,769	101.5%
	相互協力貸出冊数	都立図書館等の協力により貸出したもの	437	475	382	80.4%
	団体貸出団体数	団体別登録数	37	39	41	105.1%
	団体貸出冊数	実績	5,295	5,800	6,072	104.7%
レファレンス(調べもの相談)の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	1,918	2,032	1,021	50.2%
講座・講演会・行事の開催 (「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上)	事業実施回数	おはなし会	91	88	87	98.9%
		映画会(一般)	2	2	4	200.0%
		映画会(児童)	2	2	2	100.0%
		一般向け事業(講演会、講座)	8	6	7	116.7%
		児童向け事業(こども会、人形劇)	28	27	9	33.3%
		展示会	68	49	51	104.1%
		その他	16	17	13	76.5%
	事業参加者数	おはなし会	1,339	1,208	1,349	111.7%
		映画会(一般)	53	65	35	53.8%
		映画会(児童)	41	78	13	16.7%
		一般向け事業(講演会、講座)	241	111	192	173.0%
		児童向け事業(こども会、人形劇)	1,168	1,023	290	28.3%
		その他	389	215	38	17.7%
		ボランティアとの協働	協働(ボランティア)事業実施回数	協働事業実施回数	73	70
他機関との連携	学校への支援回数(団体貸出を除く)	調べ学習資料貸出	66	59	46	78.0%
		ブックトーク等	5	2	0	0.0%
		職場体験	4	4	4	100.0%
		図書館見学	6	6	3	50.0%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数	実績	118	106	72	67.9%
経費(コスト)	貸出し1冊あたり経費(円)	年間経費÷貸出冊数	272	285.3	267.7	93.8%
	利用者1人あたり経費(円)	年間経費÷入館者数	366	388.0	375.7	96.8%

図書館評価表(1) 南荻窪図書館

評価項目	自己評価	平成30年度の目標	取組結果
資料の充実	A	与謝野晶子・鉄幹関連資料の充実	訳本や与謝野鉄幹を中心とする機関紙「明星」の研究書籍などの出版があり、所蔵受け入れができた。
		「生物多様性の本箱」常設展示コーナーの充実	生物多様性は近年関連書籍の出版が多く、充実させることができた。
		あかちゃんに読んであげような資料や子育て支援資料といった参考図書資料の充実	資料の買い替えや調べものとしての資料を充実させるとともに、書架の並べ方で見やすくする工夫をした。
誰もが利用しやすい図書館に	A	バリアフリー映画上映会の開催	9月にバリアフリー映画上映会を開催した。
		利用しやすい環境の整備	館内サインを随時見直し、必要に応じて更新・新規作成を行った。
レファレンス(調べもの相談)の充実	B	定期的な研修による職員のスキルアップ	業務端末上の検索だけでなく、利用者用端末機利用の案内をよりスムーズに行うために習得に努めた。
		外部講師によるレファレンス研修の実施	館内整理日などの機会に実際にあったレファレンスの共有を行い、職員のスキルアップを図った。
講座・講演会・行事の開催	A	地域に密着した講師による行事の開催	地域にお住まいの方を講師とした講演会が定着したことにより、講師の申出などを得られるようになってきた。
		館内展示の充実	館の重点課題である「環境」をテーマに、『いきもの研究所』という展示と、それに関連したクイズの実施をするなど事業の充実を図ることができた。
ボランティアとの協働	A	おはなし会等での協働	良好な関係を継続し、急な予定変更があっても対応することができた。
快適な読書空間の整備	A	楽しい読書空間作り(児童図書フロア)	季節ごとの掲示入れ替えをし、利用者参加のぬりえの掲示を行った。ヤングアダルトコーナーの名称を「YAコーナー放課後読書倶楽部」に変更した。
子ども読書活動の推進	A	あかちゃんタイムとあかちゃんえほんのじかんの内容の充実	天候により参加数の増減はあるものの、毎月の参加を楽しみにしていただいている。
		近隣の学校との協働事業	近隣の小学校の児童による本の紹介を掲示した。図書館行事の周知に協力いただいた。
		招待おはなし会の再検討・計画推進	招待おはなし会「おさんぽおはなし会」を開催した。
他機関との連携	A	近隣小中学校との連携強化	小中学校合わせて4校の学校司書との連絡会を行った。
		区内施設との連携	情報共有を図るための連絡会を設けることができた。
人材育成・研修計画	A	テーマを設定した定期的な全員研修の実施	館外研修へ参加した職員のフィードバックにより、職員全員で研修内容の共有をしている。
		外部機関主催の研修への積極的な職員の派遣	中央図書館や都立図書館、TRC本社の研修に職員を派遣した。
広報・情報発信	A	おたよりの内容の見直しと充実	表紙面と内容の一部を刷新した。
		広報の強化	新たに学校の図書だよりや高井戸図書館のTwitterにイベント情報をツイートしてもらったり、地域の子育てネットワーク会議から地元新聞販売店の無償協力で新聞折り込みのイベント広報ができた。

図書館評価表(2) 南荻窪図書館

評価項目	指標	算出方法等	28年度実績	29年度実績	30年度実績	前年度との増減率
資料の充実	蔵書冊数	実績	147,423	143,081	140,190	98.0%
	購入冊数	実績	7,399	7,266	6,794	93.5%
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	157,982	148,197	151,690	102.4%
	利用登録者数	実績	9,123	9,348	9,405	100.6%
	新規利用登録者数	実績	754	707	833	117.8%
	年間貸出冊数	実績	287,978	274,694	283,457	103.2%
	相互協力貸出冊数	都立図書館等の協力により貸出したもの	355	352	281	79.8%
	団体貸出団体数	団体別登録数	27	27	29	107.4%
	団体貸出冊数	実績	8,999	7,707	8,003	103.8%
レファレンス（調べもの相談）の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	2,823	1,876	2,455	130.9%
講座・講演会・行事の開催 （「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上）	事業実施回数	おはなし会	62	60	61	101.7%
		映画会（一般）	2	1	2	200.0%
		映画会（児童）	0	0	0	-
		一般向け事業（講演会、講座）	1	3	4	133.3%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	3	2	4	200.0%
		展示会	49	66	74	112.1%
		その他	5	5	9	180.0%
	事業参加者数	おはなし会	867	620	650	104.8%
		映画会（一般）	45	40	64	160.0%
		映画会（児童）	0	0	0	-
		一般向け事業（講演会、講座）	31	59	77	130.5%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	108	51	116	227.5%
		その他	40	296	1,112	375.7%
		ボランティアとの協働	協働（ボランティア）事業実施回数	協働事業実施回数	49	61
他機関との連携	学校への支援回数（団体貸出を除く）	調べ学習資料貸出	74	54	47	87.0%
		ブックトーク等	22	22	22	100.0%
		職場体験	5	3	2	66.7%
		図書館見学	0	1	0	0.0%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数	実績	56	45	31	68.9%
経費（コスト）	貸出し1冊あたり経費（円）	年間経費÷貸出冊数	305	337.6	317.7	94.1%
	利用者1人あたり経費（円）	年間経費÷入館者数	557	625.7	593.7	94.9%

図書館評価表(1) 下井草図書館

評価項目	自己評価	平成30年度の目標	取組結果
資料の充実	A	既刊本を含め、利用者の要望に応じた資料の収集を行う。	利用者の要望を中心に、新刊・既刊の購入をすることができた。
		蔵書を適切に管理するため、除籍を計画的に行う。	年度末の蔵書数は適正化計画の目標値を達成することができた。
誰もが利用しやすい図書館に	A	児童、一般別の分かりやすい書架案内に更新する。	利用者の声を反映し、一般書架案内図をわかりやすい表現にした。これまで掲示していなかった図書分類表についても新たに作成した。
レファレンス(調べもの相談)の充実	B	パスファインダーの定期的な内容の確認と更新を行う。	「子育て」「医療・健康」「身近な植物」の3つのパスファインダーの更新を行った。情報の更新とデザインの統一を図った。
		レファレンスの専門家による研修を行う。	中央図書館や委託事業者が主催した専門家による研修にスタッフを受講させた。受講後、OJT研修を行いスタッフ全員が共有できた。
講座・講演会・行事の開催	A	専門家を招いた一般向け講座や児童向け行事を行う。	一般向けは「健康講座」「文学講演会」、児童向け「工作会」は、外部の専門家を招いて開催した。
		当館の重点課題である「生活における健康」に関する講座を開催する。	「杉並区と大塚製菓株式会社との連携と協働に関する包括協定」による「健康講座」を開催することができた。
ボランティアとの協働	B	ボランティアとの良好な協働事業を実施するとともに、情報交換を行う。	ボランティア団体と協働し、合同によるおはなし会の開催や布絵本、布製カードケースを作成した。また、各団体と情報交換会を実施した。
快適な読書空間の整備	B	館内装飾を適宜変更し、新鮮で明るい雰囲気づくりをする。	季節ごとに階段や児童フロアの装飾を行った。また、秋には利用者参加型の館内装飾を作製・掲示する図書館イベント(工作会)を開催した。
子ども読書活動の推進	A	YA(ヤングアダルト)資料の充実を図る。	YA向け新刊図書の購入やテーマ毎の展示を行い、YAコーナーの充実を図った。YA世代の利用者は着実に増えている。
		「YAブックリスト」を作成し、近隣学校に配布する。	YA向けのおすすめ図書を図書館スタッフが選定し、ブックリスト「本の庭・特別号」を発行した。近隣小中学校に配布し、館内では来館者向けに配布した。
他機関との連携	A	学校司書との連絡会を実施し、近隣小中学校との連携を深め、YA事業の充実を図る。	学校司書連絡会でYA事業に向けた企画が提案された。小学生の「図書館見学」、「体験学習」の受け入れや中学生向け「調べ学習講座」を実施した。
		区民センターまつりに「古本市」を出店し、地域との連携を深める。	井草地域区民センターまつりに「古本市」を出店し、地域住民に図書館をPRすることができた。
人材育成・研修計画	B	全体ミーティングを利用しての自主研修の実施や外部の専門研修に積極的に参加する。	全体ミーティングの時間を利用しさまざまなOJT研修を行った。外部研修は積極的に参加させ、受講後は全スタッフに情報共有を図った。
広報・情報発信	B	図書館だより4種(一般向け『BOOK CAFE』、児童向け『しもしちくん』、YA向け『本の庭』、独自コーナー用『「名作文庫」通信』)の充実を図り定期的に発行していく。	一般向け『BOOK CAFE』とYA向け『本の庭』は紙面をリニューアルして発行した。内容も趣向をこらし、読み物としても楽しめる構成とした。

図書館評価表(2) 下井草図書館

評価項目	指標	算出方法等	28年度実績	29年度実績	30年度実績	前年度との増減率
資料の充実	蔵書冊数	実績	139,314	129,174	121,140	93.8%
	購入冊数	実績	7,634	7,339	6,756	92.1%
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	200,799	227,256	229,601	101.0%
	利用登録者数	実績	13,293	13,355	13,668	102.3%
	新規利用登録者数	実績	1,251	1,240	1,329	107.2%
	年間貸出冊数	実績	349,953	342,578	344,540	100.6%
	相互協力貸出冊数	都立図書館等の協力により貸出したもの	299	348	403	115.8%
	団体貸出団体数	団体別登録数	44	46	50	108.7%
	団体貸出冊数	実績	9,328	10,449	10,421	99.7%
レファレンス（調べもの相談）の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	1,850	2,231	2,389	107.1%
講座・講演会・行事の開催 （「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上）	事業実施回数	おはなし会	153	124	125	100.8%
		映画会（一般）	2	3	3	100.0%
		映画会（児童）	0	0	0	-
		一般向け事業（講演会、講座）	2	1	2	200.0%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	12	12	12	100.0%
		展示会	61	51	67	131.4%
		その他	2	2	2	100.0%
	事業参加者数	おはなし会	2,665	2,149	1,977	92.0%
		映画会（一般）	77	103	65	63.1%
		映画会（児童）	0	0	0	-
		一般向け事業（講演会、講座）	54	37	51	137.8%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	423	406	293	72.2%
		その他	49	61	156	255.7%
		ボランティアとの協働	協働（ボランティア）事業実施回数	協働事業実施回数	3	26
他機関との連携	学校への支援回数（団体貸出を除く）	調べ学習資料貸出	83	72	56	77.8%
		ブックトーク等	0	0	0	-
		職場体験	4	3	6	200.0%
		図書館見学	2	1	2	200.0%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数	実績	56	50	53	106.0%
経費（コスト）	貸出し1冊あたり経費（円）	年間経費÷貸出冊数	262	280.6	279.6	99.7%
	利用者1人あたり経費（円）	年間経費÷入館者数	456	422.9	419.6	99.2%

図書館評価表(1) 高井戸図書館

評価項目	自己評価	平成30年度の目標	取組結果
資料の充実	A	高井戸図書館独自の地域資料の作成	高井戸図書館サポーター(ボランティア)と協働して、高井戸図書館発行の地域史を作成し、地域の方々から好評を得た。
		蔵書の適正化計画に沿った除籍	目標値を高めに設定しているため、目標に対する達成率が若干低い、他館と比べても遅れることなく除籍を進めることができた。
		担当分野(外国語・海外文学)の資料の収集	選定基準が緩和されたCD付きの資料の積極的購入を進められ、需要に応えられた。
誰もが利用しやすい図書館に	B	図書館利用講座を実施	少人数だったが、その分手厚く対応することができ、参加された方も満足した様子だった。
レファレンス(調べもの相談)の充実	B	パスファインダーの作成	高井戸地域にゆかりのある松本清張をテーマにしたパスファインダーを作成し、調べ物に役立った。
		レファレンス研修の実施	毎年研修を行い、知識の蓄積ができ、日ごろのレファレンス業務に活かされた。
		レファレンス事例の蓄積	レファレンスの記録様式を職員が記載しやすいように簡略化したことで、レファレンス事例の蓄積が増えた。
講座・講演会・行事の開催	A	開館20周年を記念した企画や展示の実施	「地域」をテーマにして「高井戸一番街・浜田山商店街共催展示」などの取り組みに挑戦することができ、今後更に地域の方々と連携を深めるための良いきっかけになった。
ボランティアとの協働	A	地域の方の作品展示スペースであるミニギャラリーの出展者の募集	出展者募集のチラシを近隣施設に配布し、新しい出展者を募ることができた。
		各読み聞かせボランティア団体が一堂に会するおはなし会の実施	毎年恒例の大人のおはなし会を実施することができた。各団体の特色が出ていてお互いの刺激にもなった。
快適な読書空間の整備	A	安全で安心な読書空間を提供するため巡回を強化	ルーティン化しないように、危機管理研修を頻繁に行ない、気を引き締めながら巡回強化に当たられた。
		季節感のある掲示	各特集展示コーナーや掲示物の年間計画を立て、季節に合った館内の雰囲気づくりができた。
		館内の掲示物の見直し	快適な読書空間をつくるため、色褪せたポスターや剥がれかけた掲示物の張替えを行った。
子ども読書活動の推進	A	「読み聞かせにおすすめする本の棚」の内容更新	実際に棚の本を参考にして読み聞かせをした方からの感想を聞き、棚の内容を再検討することができた。
		ビブリオバトルの実施	高井戸中学校の読書週間に合わせて、実施することができた。先生方や保護者も見学に来ていて、期待値の高さを窺うことができた。
		中高生の居場所となる「YA広場」の開室	テーブルゲームなども設置し、友人と放課後に図書館に来るきっかけにもなった。
他機関との連携	A	出張おはなし会の範囲拡大	昨年度は日程が合わず実現しないケースもあったが、今年度は事前に打ち合わせも重ね、実施することができた。
		職場体験の積極的な受け入れ	人数の調整を行ない、できるだけ多くの学校からの依頼を受けられるようにした。
人材育成・研修計画	B	館内整理日を利用した全スタッフ対象の研修を実施	今年度の研修は、危機管理に重点を置いたが、スタッフのスキルアップにつながる研修も併せて行えた。
		外部研修の積極的参加	都立図書館や本社で行なう研修にも参加することができた。
		継続的な危機管理研修の実施	公共の施設として様々な事例に対応すべく、多角的な危機管理研修を行なえた。
広報・情報発信	A	SNSを利用した図書館情報の発信	今年度からツイッターをはじめ、イベントや図書館の取り組みについての情報を発信することができた。

図書館評価表(2) 高井戸図書館

評価項目	指標	算出方法等	28年度実績	29年度実績	30年度実績	前年度との増減率
資料の充実	蔵書冊数	実績	135,064	129,430	126,413	97.7%
	購入冊数	実績	7,451	7,286	6,712	92.1%
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	235,776	226,601	220,546	97.3%
	利用登録者数	実績	15,338	15,930	16,109	101.1%
	新規利用登録者数	実績	1,384	1,513	1,315	86.9%
	年間貸出冊数	実績	393,060	380,001	373,252	98.2%
	相互協力貸出冊数	都立図書館等の協力により貸出したもの	799	703	654	93.0%
	団体貸出団体数	団体別登録数	90	94	102	108.5%
	団体貸出冊数	実績	15,586	17,032	17,857	104.8%
レファレンス（調べもの相談）の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	5,612	5,236	2,488	47.5%
講座・講演会・行事の開催 （「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上）	事業実施回数	おはなし会	136	133	134	100.8%
		映画会（一般）	3	4	14	350.0%
		映画会（児童）	6	2	9	450.0%
		一般向け事業（講演会、講座）	35	42	44	104.8%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	9	3	3	100.0%
		展示会	75	112	102	91.1%
		その他	3	4	7	175.0%
	事業参加者数	おはなし会	2,424	2,694	2,474	91.8%
		映画会（一般）	59	63	178	282.5%
		映画会（児童）	255	81	343	423.5%
		一般向け事業（講演会、講座）	1,207	1,232	958	77.8%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	327	108	136	125.9%
		その他	99	26	22	84.6%
		ボランティアとの協働	協働（ボランティア）事業実施回数	協働事業実施回数	95	233
他機関との連携	学校への支援回数（団体貸出を除く）	調べ学習資料貸出	119	146	149	102.1%
		ブックトーク等	5	4	7	175.0%
		職場体験	10	11	5	45.5%
		図書館見学	7	9	7	77.8%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数	実績	104	82	106	129.3%
経費（コスト）	貸出し1冊あたり経費（円）	年間経費÷貸出冊数	236	255.6	245.7	96.1%
	利用者1人あたり経費（円）	年間経費÷入館者数	394	428.6	415.8	97.0%

図書館評価表(1) 方南図書館

評価項目	自己評価	平成30年度の目標	取組結果
資料の充実	A	担当割で各棚の管理を実施	担当を入れ替え、棚ごとに除籍・購入を管理し偏りのない書架構成を実施した
		学校司書との情報交換のもと、学校現場にあった選書の実施	7月にリサイクル市を実施、児童書は2月の学校司書連絡会時に学校と公共施設へ頒布し還元を図った。学校司書連絡会では各校の情報交換を行った
		分担収集(経済)・重点課題(子育て支援)を中心に収集・除籍計画にそった蔵書構築を行う	分担収集(経済)・重点課題(子育て支援)は館の顔でもあり特に意識して除籍・購入にあたった結果、棚の内容が入れ替わり、引き締まった棚になった
誰もが利用しやすい図書館に	A	古くなったサインや書架の見出し文言・テーマの見直しを実施、探しやすい棚へ変更の準備	蔵書規模適正化により生まれた空間を生かし、震災時危険な最上部への配架を廃止した。また雑誌架はジャンルにより色別しわかりやすく工夫した
		児童書架の日本の読み物の書架の高さを下げ、全体が見通せるようにする	計画通りに除籍が進み、児童書架最上部の配架は廃止、分散されていた並びも改善された。最上部の棚の取り外しは持ち越しとなった
レファレンス(調べもの相談)の充実	A	声をかけやすい環境づくり	対利用者に限らず、日頃の職場でも顔をあげての挨拶を徹底した
		現場で行かされるレファレンス研修とその成果の共有	3名のレファレンス担当を中心に、複数課題から選択式で全員が取り組むレファレンス研修を2回実施。レファレンス力向上に繋がった
		「図書館ガイド」の定着	レファレンスパッチを常時全員で装着、夏期間に捉われぬ相談受け付け体制へステップアップした
講座・講演会・行事の開催	A	あらゆる年齢層へ、様々な角度からの企画の提供	年3回のあかちゃん親子参加型の「子育て支援講座」から月齢・年齢別5つに分けたおはなし会、紙芝居劇場、館内コンサート、寄席などを実施
		地元ならではの体験講座の継続実施	2年続けて児童向けに実施した地元の工房での和紙漉き体験講座を、今年は大人向けに実施、地域再認識にも繋がり好評を博した
ボランティアとの協働	A	現役大学生から80歳代の方まで、総勢14名のボランティアとの情報交換と活動の場の提供	就職活動に入りながらも継続して実施してくれた大学生から、年度末で引退された80代のボランティアまで、それぞれが熱心に子どもたちにお話をしてくれた。
		ボランティアが自主的に企画する「おとなが楽しむお話し会」の広報活動等の協力	本年も自発的に調整を引き受けてくださり、図書館は補佐にまわることができた。徐々にボランティアの皆さんがそれぞれ意見を出し合い、一つのイベントに纏められるように進化してきた。
快適な読書空間の整備	A	グリーンカーテン事業の継続	夏の直射日光を遮るためのグリーンカーテンは、3月の土壌づくりから晩夏のゴーヤの収穫まで様々な分野の図書紹介と連携でき、しっかりとした事業となっている。
		敷地内の落ち葉の処理・防災面からコンポストを設置、いずれは腐葉土として再利用する取組開始	昨年度の火災訓練で気づいた、剥き出しだった堆積落ち葉の処理にと取組を開始。落ち葉問題は解決されたが、腐葉土の完成には至らなかった
子ども読書活動の推進	A	対象月齢・年齢別により細分化されたおはなし会の実施	0歳から未就学児、小学校低学年向け、中高学年向け、大人向け、どなたでも、といった、対象別に細分化されたおはなし会を継続実施した
		「子どもへの絵本の選び方」などの外部団体への講演会開催	子供園では「3歳児向けの絵本の選び方」の講演、方南小学校4年生に「図書館を利用した調べ方講座」、その他現場体験学習の学校と連携した取り組みを実施した
		子どもたちの興味を引き出す多様な企画の展開	実際に虫の持ち方講座、伝統玩具の制作など子どもたちの興味をきっかけとなるようなイベントを開催した
他機関との連携	B	地域子育てネットワークを中心とした近隣施設との良好な関係の維持と地域の安全確保	方南児童館主催の乳幼児向けのイベントと小中学生を交えたイベントへの協働参加を軸に、年に複数回の連絡会で地域の情報を密にとりあう地盤ができていたため、早い段階から情報共有の見守り体制を整えることができた。
		併設施設「むさしの保育園」との良好な関係維持と協働事業の実施	外部から侵入ができない構造になっている「保育園」との合同避難訓練は、毎回新たな課題が発見されているが、この積み重ねが災害時に役立つと思う。
		月1回の、ケア24方南主催介護相談会の定着	高齢者問題に関連する資料をテーマを変えて展示を同時に行っているが、なかなか相談会の実績に結びつかない。
人材育成・研修計画	B	弊社・外部研修への積極的な参加とその情報共有	毎月全員参加のロールプレイング研修を含め内部研修は20回ほど、外部研修へも10数回参加、再度全員で確認する場も設けスキルアップに繋がった。
		司書資格取得の奨励	司書率は70%を維持しているものの、新たな資格取得者はいなかった。
広報・情報発信	B	対象にあわせた広報活動	大人向けの行事は広報誌を中心、若い世代向けの情報はHP中心に発信した。
		魅力的なポスター・チラシの作成	例年慣例の行事のポスターは見てすぐわかるように画像に大きな変更はせず、新規のイベントと違いが明確にわかるよう工夫した。

図書館評価表(2) 方南図書館

評価項目	指標	算出方法等	28年度実績	29年度実績	30年度実績	前年度との増減率
資料の充実	蔵書冊数	実績	123,179	116,421	111,090	95.4%
	購入冊数	実績	7,328	6,965	6,397	91.8%
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	148,949	144,055	150,319	104.3%
	利用登録者数	実績	10,483	10,682	11,014	103.1%
	新規利用登録者数	実績	1,141	1,090	1,145	105.0%
	年間貸出冊数	実績	270,377	257,410	257,495	100.0%
	相互協力貸出冊数	都立図書館等の協力により貸出したもの	153	174	180	103.4%
	団体貸出団体数	団体別登録数	62	59	62	105.1%
	団体貸出冊数	実績	13,363	10,497	14,363	136.8%
レファレンス（調べもの相談）の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	1,065	1,361	2,153	158.2%
講座・講演会・行事の開催 （「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上）	事業実施回数	おはなし会	98	101	106	105.0%
		映画会（一般）	0	1	0	0.0%
		映画会（児童）	1	3	5	166.7%
		一般向け事業（講演会、講座）	18	18	18	100.0%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	14	10	10	100.0%
		展示会	63	65	126	193.8%
		その他	31	34	24	70.6%
	事業参加者数	おはなし会	1,687	1,415	2,027	143.3%
		映画会（一般）	0	23	0	0.0%
		映画会（児童）	20	75	107	142.7%
		一般向け事業（講演会、講座）	371	341	368	107.9%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	375	463	314	67.8%
		その他	1,763	1,374	919	66.9%
		ボランティアとの協働	協働（ボランティア）事業実施回数	協働事業実施回数	68	77
他機関との連携	学校への支援回数（団体貸出を除く）	調べ学習資料貸出	43	84	80	95.2%
		ブックトーク等	2	2	2	100.0%
		職場体験	13	5	3	60.0%
		図書館見学	1	0	1	-
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数	実績	42	50	61	122.0%
経費（コスト）	貸出し1冊あたり経費（円）	年間経費÷貸出冊数	303	334.1	315.2	94.3%
	利用者1人あたり経費（円）	年間経費÷入館者数	551	597.0	539.9	90.4%

図書館評価表(1) 今川図書館

評価項目	自己評価	平成30年度の目標	取組結果
資料の充実	A	区立図書館全体の蔵書数の適切な管理と児童用資料の買い替えなどによる資料の充実	蔵書数の適正化を図り、見やすい書棚づくりができた。また、常設のリサイクル棚を設置したことで二次利用がスムーズに実施でき、資料を手にとってもらえる機会も増えた。
		重点課題「緑化推進」に関連した資料展示	「緑化推進」の常設展示と季節展示のほか、みどりのワークショップ(行事)に合わせた資料展示を実施した。展示資料を手にとってご覧になる方が増え、展示資料の貸出が増えた。
誰もが利用しやすい図書館に	A	高齢者、障がい者への配慮	リーディングトラッカー、リーディングルーペといった読書補助具を購入し、「障がい者週間」に関連資料とともに展示を行った。所蔵する資料・補助具を知ってもらう機会となり、高齢者や障がい者への取組みを周知することが出来た。
		館内研修の実施	館内研修「ヘルプマークを知っていますか?」を実施した。
レファレンス(調べもの相談)の充実	A	館内研修の実施	中央図書館主催の「レファレンス研修」(2回)に参加した職員が講師となり、職員向けに研修を実施した。学んだ内容を報告、共有することで、職員のスキル向上に繋がった。
		調べものに役立つ催しの企画	小学生を対象に、図書館の使いかたや本の探しかたをクイズをしながら学ぶ「としよかんツアー〜ハリネズミくんをさがせ〜」を実施した。クイズ形式で楽しく図書館の活用方法を学び、子どもたちの調べ学習へのスキル向上に繋がった。また普段立ち入れない書庫を案内することで、図書館への関心を高めた。
講座・講演会・行事の開催	A	本と結びつく事業、継続した来館に繋がる事業の実施	催事関連『琵琶で聴く・幕末 西郷隆盛』(ほか)や文学賞関連『芥川・直木賞発表』(ほか)などの新たな企画展示を実施した。新企画『琵琶で聴く・幕末 西郷隆盛』(参加者人数42名)はキャンセル待ちが出る賑わいであった。
		地域の歴史や文化に関連した事業の実施	近隣の東京女子大学との連携催事:『留学生が見た善福寺界限』発表会を実施した。
ボランティアとの協働	A	「子どもの読書応援団」(意見交換会)の実施	読み聞かせボランティアが新たに1団体加わり、4団体で「子どもの読書応援団」(意見交換会)を開催した。ボランティア間でスキルの共有ができ、人材の育成やおはなし会の魅力向上に繋がった。
		ボランティアが習得したスキルを活かせる発表の場を提供	例年開催の行事のほか、「読み聞かせおすすめ本」(ブックリスト)の作成など新たな企画を協働で行い、発表の場を提供した。
快適な読書空間の整備	A	閲覧席の増設と施設の有効活用	2階多目的室を「調べ学習室」として通年開放に向けて7月1日から試験的に実施した。
		館内の過ごしやすい環境作りを通じ図書館利用と資料利用の促進を図る	みどりのカーテンを設置して、西日の遮光による快適な館内環境の維持に努めた。また、「郷土資料」棚の改善により資料が手に取りやすくなり、快適な読書空間作りを寄与した。
子ども読書活動の推進	A	家庭読書支援のための取り組み	「あかちゃんおはなし会」、「あかちゃんタイム」の開催回数を増やした。また、乳幼児の保護者向け「絵本のよみかた・えらびかた講座」を実施した。
		中高生世代の読書活動の推進のための取り組み	「中学校の図書室へようこそ」と題したブックレットを近隣中学校3校の学校司書と連携して作成した。その表紙絵を生徒から募集して仕上げ、3月に近隣小学校を卒業する6年生の児童に贈った。
他機関との連携	A	学校図書室と連携した事業の実施	近隣小学校4校・中学校3校の学校司書との「子どもの読書応援団」(意見交換会)を実施した。図書館職員出張ワークショップ「図書室で布製ブックカバーを作ろう」や、「中学生による手作り絵本展示」など、新たな支援に繋がった。
		ゆうゆう今川館など地域の生涯学習施設や大学などの他機関と連携した事業の実施	ゆうゆう今川館との協働をはじめ、善福寺児童館への図書館職員出張読み聞かせ講座など様々な機関との協働と新たな企画を実施した。
人材育成・研修計画	B	職員のスキル向上のため、研修を継続的に実施し、自己研鑽に励む	「ベーシック(接遇・著作権)研修」、「児童サービス基礎(おはなし会)研修」、「本の修理・補修研修」、「ライブラリースクール実用英会話」他、年間25の研修に参加しスキルアップに努めた。各人が受講した内容を全体ミーティングの場で報告し、全職員で共有することで、職員のスキルアップに繋がった。
広報・情報発信	A	「広報すぎなみ」、「図書館ホームページ」、「図書館だより」、「あかちゃん向け発行物」、等による継続した情報発信	「広報すぎなみ」への記事掲載「琵琶で聴く・幕末 西郷隆盛」をはじめ、各催事とも定員オーバーの申込みに繋がった。
		館内での新たな広報・情報発信	「読み聞かせおすすめ本」(ブックリスト)と、おはなし会で読んだ本の展示を実施した。図書館利用や読書への興味促進に繋がった。

図書館評価表(2) 今川図書館

評価項目	指標	算出方法等	28年度実績	29年度実績	30年度実績	前年度との増減率
資料の充実	蔵書冊数	実績	129,744	127,353	125,419	98.5%
	購入冊数	実績	7,569	7,235	6,660	92.1%
誰もが利用しやすい図書館に	入館者数	実績	202,565	192,066	192,238	100.1%
	利用登録者数	実績	9,955	10,419	10,571	101.5%
	新規利用登録者数	実績	1,029	1,033	935	90.5%
	年間貸出冊数	実績	348,873	336,232	327,848	97.5%
	相互協力貸出冊数	都立図書館等の協力により貸出したもの	209	215	240	111.6%
	団体貸出団体数	団体別登録数	48	47	47	100.0%
	団体貸出冊数	実績	8,344	8,406	7,253	86.3%
レファレンス（調べもの相談）の充実	レファレンス件数	レファレンス件数	2,589	2,420	2,946	121.7%
講座・講演会・行事の開催 （「子ども読書活動の推進」に係る行事はここに計上）	事業実施回数	おはなし会	85	83	89	107.2%
		映画会（一般）	0	1	0	0.0%
		映画会（児童）	1	0	0	-
		一般向け事業（講演会、講座）	4	5	10	200.0%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	8	10	7	70.0%
		展示会	66	75	75	100.0%
		その他	10	16	60	375.0%
	事業参加者数	おはなし会	1,318	1,414	1,379	97.5%
		映画会（一般）	0	11	0	0.0%
		映画会（児童）	9	0	0	-
		一般向け事業（講演会、講座）	23	105	247	235.2%
		児童向け事業（こども会、人形劇）	277	497	217	43.7%
		その他	368	834	829	99.4%
		ボランティアとの協働	協働（ボランティア）事業実施回数	協働事業実施回数	53	54
他機関との連携	学校への支援回数（団体貸出を除く）	調べ学習資料貸出	93	101	63	62.4%
		ブックトーク等	2	2	2	100.0%
		職場体験	5	5	5	100.0%
		図書館見学	4	5	2	40.0%
広報・情報発信	広報すぎなみ・図書館HP掲載回数・おたより発行回数	実績	48	53	52	98.1%
経費（コスト）	貸出し1冊あたり経費（円）	年間経費÷貸出冊数	245	266.6	261.4	98.0%
	利用者1人あたり経費（円）	年間経費÷入館者数	422	466.8	445.8	95.5%

<資料2> 重点項目の評価表

重点項目として取り上げた「資料の充実」「ボランティアとの協働」「他機関との連携」の3つの項目について、課題・改善点等と中央図書館が実施した全体評価について掲載した。

重点項目の評価表		資料の充実	
	平成30年度の目標	課題・改善点等	全体評価(◎とてもよい○よい△課題あり)
中央	蔵書規模の適正化を推進するとともに、開架部分の資料について除架や買い替えを進めていく。	今年度は休館に向けて除籍を進めた結果、目標値を達成することができたが、担当している業務委託館の除籍については達成率が低いため次年度への課題とする。	◎蔵書規模の適正化については目標値を上回った。(達成率102.4%) ○実用書や情報が古くなった開架の資料について、除架や買い替えを行った。
	DAISY資料の作成点数の増を図る。	中央図書館の休館中の連絡体制等をボランティアと相談しながら、DAISY資料の作成に取り組む。	○ボランティアとの協働により、DAISY資料の作成を行った。
	行政資料のデジタルアーカイブ化について、100タイトルを目標に実施する。	作成したデータについて、管理情報の修正が必要なものがある。	◎目標タイトル数を超えて作成することができた。
	ICTを活用したサービスの可能性を探る。	作成したDAISY資料を、30年度から国立国会図書館の視覚障害者専用データサービスに登録し、利用の拡大を図る。	◎国会図書館のデータサービスに参加することにより、全国の利用者の利便性を向上させた。 △区内の利用者への周知を図っていく必要がある。
永福	資料管理要綱・蔵書規模の適正化方針に基づく適切な蔵書管理を行う	四半期ごとに蔵書数を把握し蔵書管理に努め、年度末105,000冊の蔵書数を目標とする。	◎蔵書規模の適正化については目標値を上回った。(達成率100.6%) ○資料の充実について、分担収集分野だけでなく、語学、YA、スポーツ等、利用者のニーズに合わせて行った。
	資料状態・貸出状況を確認しながら慎重に保管替え(開架から保存書架へ、保存書架から開架へ資料の移動)・除籍・リサイクルを行う	保管替え・除籍・リサイクル作業を引き続き慎重に行う。	○除籍資料やリサイクル資料について、丁寧に選書を行っている。
柿木	利用者の要望に応えられるよう、幅広い分野において資料収集を行っている。	当館の特徴として全集などの古い貴重な資料を所蔵しており、保存という意味でも役割を果たしていく必要がある。	○蔵書規模の適正化について目標をおおむね達成した。 ○新刊購入の時点で、分担収集分野について配慮を行っている。
	子どもの利用者増を図るため、幅広い分野から魅力ある図書を収集していく。	子どもの利用者増を図るため、幅広い分野から図書を収集し、魅力ある書架づくりを目指すことが大切である。	○利用の多い絵本、小学生向けの読物を中心に収集を行った。 ◎スタンプラリーや工作会等児童向け行事を多く行い利用の啓発するとともに、貸出へつながるよう工夫した。
高円寺	図書館の移転・改築を見据え、所蔵する資料の点検・評価を実施し、蔵書の適正化を進める。	児童書の廃棄が進んでいない。団体貸出の団体が多いため、影響の出にくい保存庫の本を中心に、情報の古い本や汚破損本を廃棄していきたい。	◎蔵書規模の適正化について目標をほぼ達成した。 ○分担収集分野についての資料充実を図った。
	利用者満足度調査で低評価となった文庫コーナーを見直す。	これまで時代小説が目立っていたため、現代小説や古典などを買い足しているが、貸し出し傾向が高いため、今後も利用傾向や新刊の出版状況などをチェックし、購入を進める。	◎前年度の評価で指摘された文庫コーナーについて、資料を更新し、より使いやすい棚づくりを行った。
宮前	YAコーナーの充実	徐々にではあるが、YAコーナーの認知度が上がってきている。利用者の反応をうかがいつつ、今後も修正を加えながら、利用促進を図りたい。	◎区外の図書館の事例に学び、充実を図っている。 ○英語多読用の図書を入れ、語学図書のニーズに応えている。
	蔵書適正化による除籍作業について、偏りのないよう蔵書のバランスを保つ。	年度開始時に目標冊数を設定するのだが、今年はそれに到達できなかった。今後は除籍作業の効率化を図り、作業の速度を上げることに努める。	○蔵書規模の適正化について目標をおおむね達成した。
成田	分担収集7門(芸術・芸能・映画・スポーツ分野)の収集	全ての分野がカバーできるよう未収蔵分野等も収集する。	○蔵書規模の適正化について目標をおおむね達成した。 ○分担収集分野の最新の資料を収集することで、魅力ある棚づくりを行った。
	児童書について、ロングセラー本と外国文学の除籍・買い替え。またヤングアダルト分野の収集。	地理・歴史分野の買替を進めてゆき最新の情報提供に努める。	△児童書の買い替えは必要だが、人気のある本だけでなく、基本書についても行ってほしい。 ○YA資料の充実を図った。

	平成30年度の目標	課題・改善点等	全体評価(◎とてもよい○よい△課題あり)
西萩	資料管理計画に基づく、除籍作業と新規購入による資料の充実	偏った資料収集にならないよう、除籍作業と並行して新刊本の購入、買い替え等をバランスよく行い書架の更新を行う。	◎蔵書規模の適正化について目標をおおむね達成した。
	保存書庫資料の除籍・保管替えの継続実施(6類産業から9類文学)	開架書架は、新規に図書を受け入れることで収まりきらなくなるため、保存書庫を有効に使い区内1冊本等は保管替えも進めていく。	◎保存庫資料の除籍を分野を決めて集中的に行った。
	調べ学習や団体貸出に利用する資料の充実	団体配本対象クラスの増加に伴い、図書の不足も考えられる。中央図書館からの借り受けも視野に入れ資料の充実を図っていく。	◎調べ学習資料の充実を図った。
	書架の配架スペースの見直し(3類社会科学)	今後は、図書が収まりきらなくなっている書架の配架調整や除籍・保管替え作業を計画的に進めていく。	◎魅力ある棚づくりの工夫を行った。
阿佐谷	除架・除籍の推進・手に取りやすい書架作り	保存庫の資料を更に除籍を進め、空いた場所には開架から移動して、新しい本との循環を生む。	◎蔵書規模の適正化について前年度と比べ目標に大きく近づく量の除籍を行った。 ◎資料の整理により、使いやすい棚づくりを行った。
	児童書の収集と整理	自然といきものジャンルの見出しと分類も見直しが必要。手が届かない位置に別置した本も移動を検討する。	◎児童書の買い替えを行い、資料の更新をした。 ◎サインの更新を行った、
南萩窪	与謝野晶子・鉄幹関連資料の充実	与謝野晶子生誕140周年であり、関連書籍の刊行が多く資料の充実が図れた。	◎地域資料の充実に努めた。 △蔵書規模の適正化についてはさらに進めていく必要がある。
	「生物多様性の本箱」常設展示コーナーの充実	隔月にテーマを設け展示し、クイズを出題するなど資料への関心につなげた。	◎課題解決型サービスとして、展示や資料の充実を行った。
	あかちゃんに読んであげような資料や、子育て支援資料といった参考図書資料の充実	幼児が選びやすく、お母さんから目が届きやすいように資料を配置した。	◎利用者のニーズに合わせた資料の充実や棚づくりを行った。
下井草	既刊本を含め、利用者の要望に応じた資料の収集を行う。	事典等の調べもの用参考図書で古くなったものが多く、収集基準に基づき計画的に購入していく。	◎利用者からの要望が多く、重点課題としている「公衆衛生、予防医学」の収集を行った。
	蔵書を適切に管理するため、除籍を計画的に行う。	利用者の読書ニーズに対応するため、蔵書規模の適正化に沿ってすすめる。	◎蔵書規模の適正化について目標をほぼ達成した。
高井戸	高井戸図書館独自の地域資料の作成	地域館として、地域の歴史を残すことを重要な取り組みの一つと捉え、活動を継続する。	◎地域資料の作成を、区民との協働により行った。
	蔵書の適正化計画に沿った除籍	順調に除籍が進められているが、進捗に応じて計画(目標値)の再検討が必要。	◎蔵書規模の適正化について目標をおおむね達成した。
	担当分野(外国語・海外文学)の資料の収集	引き続き需要が多いCD付きの資料に留意して、積極的に購入・買替えを進める。	◎分担収集分野の資料の充実を図った。
方南	担当割で各棚の管理を実施	担当を入れ替え、偏らぬ目で棚管理を行う	◎担当制により、きめ細かい配慮による棚づくりを行った。
	学校司書との情報交換のもと、学校現場にあった選書の実施	30年度は、学校司書連絡会で得た各学期で取り組むテーマを参考に選書に生かした。引き続き31年度も、学校司書との情報交換の基、現場に合った資料が提供できるように選書する。	◎学校司書との連携による資料収集を行った。
	分担収集(経済)・重点課題(子育て支援)を中心に収集・除籍計画にそった蔵書構築を行う	購入・保管替え・除籍を慎重に行い、棚の活性化を図りながら30年度末の蔵書数を維持する	◎蔵書規模の適正化について目標をほぼ達成した。 ◎分担収集分野について資料充実を図った。
今川	区立図書館全体の蔵書数の適切な管理と児童用資料の買い替えなどによる資料の充実	引き続き蔵書規模の適正化と資料の充実を図るとともに、今年度から設置したリサイクル常設棚の周知に努める。	◎蔵書規模の適正化について目標をおおむね達成した。 ◎利用の多い児童の伝記について更新を行うとともに、余裕のある見やすい棚づくりを行った。
	重点課題「緑化推進」に関連した資料展示	資料を手にとってもらえるよう、魅力的ある展示を心がける。	◎重点課題としている「緑化推進」について、所蔵資料による展示を行うとともに、新刊の購入も積極的に行った。

重点項目の評価表

ボランティアとの協働

	平成30年度の目標	課題・改善点等	全体評価(◎とてもよい○よい△課題あり)
中央	図書館ボランティアの継続的な育成・支援を行う。	音訳ボランティアのステップアップ研修を行う。	◎ボランティアの育成・支援を継続的に行っている。
	スタッフとボランティア合同でおはなし会を実施する。	ボランティアが急きょ参加できなくなった場合、スタッフが代わりに対応したが、ボランティアの急な不参加に対する対応は課題として残った。	△ボランティアとの日程調整を綿密に行うようにしてほしい。
永福	ボランティア連絡会の定期的な実施	年2回のボランティア連絡会をより積極的な情報・意見交換の場となるよう努める。	○館とボランティアの関係だけでなく、ボランティア同志の交流を図っている点が評価できる。
	ボランティア全員参加のお話会の実施	ボランティアと図書館スタッフが協働したお話会の実施。	
柿木	地域の人材を積極的にボランティアとして活用する。	運営事業に多くのボランティアを活用していくことが望ましい。新規のボランティアを発掘できるよう募集していくことが必要である。	◎受け身ではなく、地域の人材をボランティアに積極的に活用しようとしている。
高円寺	ボランティア団体と協働事業を開催し、ボランティア団体への支援・育成に繋げる。	読み聞かせをする父親の会におすすめ本コーナーの選書、お話会をお願いしてきたが、会の人数が減ってしまい、今後どのように協働していくかが課題。	○地の利を生かした、多様な人材を起用して事業につなげている点が評価できる。
宮前	おはなし会等児童事業に関わるボランティアとの連携強化	ミーティングを行うことで、意思の疎通が図られ、それぞれのイベントにおいても十全に行うことが出来た。今後も継続したい。	○イベントの充実のため、引き続きミーティングを実施してもらいたい。
成田	赤ちゃんタイム、おはなし会での協働、情報共有	常に情報共有を怠らないように配慮する。	○ボランティアと綿密な連絡をとり、毎週の事業を着実に実施している。
	ボランティア団体との懇談会実施	引き続き懇談会を実施し連携していく。	
西荻	ボランティアとの連携強化を図るため、情報交換会を開催	全体情報交換会は、図書館からの一方的な事業の協力依頼にならないようにボランティアグループとの個別相談も必要に応じ行っていく。	◎ボランティアの新たな活動の場を提供できている点が評価できる。
	活動の場の提供及びボランティアによるおはなし会・朗読会の開催	日頃、西荻図書館で読み聞かせの練習を行っているグループに活動をしていただくとともに、新たなグループにも発表の場を提供していく。	
阿佐谷	読み聞かせボランティアによるおはなし会・朗読会開催	イベントを実施していない時も、ボランティアがどのような活動をしているか利用者に周知する。	◎ブックリスト「あさがや読書楽」に「よみかせボランティア」の紹介ページを設け、各ボランティア団体について、阿佐谷図書館以外での活動も利用者に紹介し、バックアップをはかっている点が評価できる。
	読み聞かせボランティア向け研修の実施	ボランティアの方は組織に属しベテランの方が多いので、そもそも研修のニーズがあるか確認が必要。懇談会の際にご意見・ご要望を伺う。	
南荻窪	おはなし会等での協働	毎週水曜日の「おはなし会」と第三水曜日「あかちゃんおはなし会」で協働し、情報交換をしながら密に協力を継続していく。	○ボランティアと綿密な連絡をとり、毎週の事業を着実に実施している。
下井草	ボランティアとの良好な協働事業を実施するとともに、情報交換を行う。	今後も各団体との意見(情報)交換会を行い、協働事業を進めていく。	◎行事の開催のみならず、「布絵本」「布製カードケース」など、利用者の使える作品も作成している点が評価できる。
高井戸	地域の方の作品展示スペースであるミニギャラリーの出展者の募集	今後とも募集をしつつ、館内イベントで作成したものの展示なども検討し、スペースを有効に活用する。	○展示スペースを有効に使い、地域の方との交流をはかっている。
	各読み聞かせボランティア団体が一堂に会するおはなし会の実施	年に一度の貴重な機会を今後も継続し、地域ボランティア同士の連携も深められるように橋渡しをする。	
方南	現役大学生から80歳代の方まで、総勢14名のボランティアとの情報交換と活動の場の提供	ボランティアのそれぞれの個性が生かされるお話の場の提供	◎ボランティアの個性を生かしたお話会を実施し、利用者からも好評だった点。
	ボランティアが自主的に企画する「おとなが楽しむお話会」の広報活動等の協力	ボランティアが自発的に企画するお話会の実施	
今川	「子どもの読書応援団」(意見交換会)の実施	各団体との意見交換会を定期的に行い、引き続き子どもたちの読書活動を応援していく。	○ボランティア4団体の意見交換会の実施で、ボランティア同志の情報共有がはかっている。
	ボランティアが習得したスキルを活かせる発表の場を提供	ボランティアのスキル向上に繋がるような協働事業を企画する。	

重点項目の評価表

他機関との連携

	平成30年度の目標	課題・改善点等	全体評価(◎とてもよい○よい△課題あり)
中央	学校図書館との連携強化を図る。	調べ学習資料の貸出や団体配本などにより、学校への支援を行う。各種コンクール事業の運営を学校と協力しながら行う。	◎多様な事業を通じ、学校への支援を継続的にしている。
	近隣施設や他課との事業協力を行う。	近隣施設や他課と情報交換しながら企画内容や開催時期を決定し、参加者にとって魅力的な事業を開催する。	○区のおさまな部署と連携し、来館者に最新の情報を届けている。
	YA世代を対象としたイベントに区内の高等学校と協力する。	図書館は、イベントの主催側としてYA世代とのつながりを増やすきっかけとしてもイベントを活用していきたい。	◎前年度の反省を踏まえ、YA世代対象のイベントを開催し好評を得た点が評価できる。
永福	近隣施設への出張お話会の定着を図る	近隣施設職員と連携し、定期的な出張お話を継続する。	○定期的な出張お話を継続的に実施し、図書館への来館を促している。
	近隣施設との連携強化	近隣施設との連絡・情報交換を行い、連携強化を図る。	○近隣のさまざまな施設とそれぞれの特性に合わせた方法で連携を図っている。
柿木	近隣の小学校と連携し、新1年生に図書館見学に来てもらい、図書館利用の促進を図る。	図書館見学に来てもらうことにより、1年生の図書館利用促進を図ることを目的としている。館内案内や大型紙芝居の読み聞かせなど、図書館に興味を持ってもらうために更なる工夫が必要と考えている。	○図書館見学を通して、図書館への理解を深めてもらえるよう取り組んでいる。
	近隣の小学校にブックトークに出かけ、読書の楽しさを伝えることに力を入れていく。	ブックトークのための主題を決め、ブックリストを作るなど、より一層本への興味を持ってもらうことを考えている。職員の力量が試される事業である。	○子ども達に興味を持ってもらえるよう、工夫してブックトークに取り組んでいる。
高円寺	団体貸出など学校図書館への支援を行う。生徒の図書館見学、職場体験も積極的に受け入れる。	地域館では最大の受け持ち校数の団体貸出事業を行った。中学生、高校生の職場体験も積極的に受け入れ、図書館の社会的役割をPRした。	○高円寺地域には、図書館の未整備地域があり、サービスエリアが広いが、団体貸出や職場体験の受け入れなど、図書館の存在意義を示す事業に積極的に取り組んでいる。
	関係する公立学校図書館司書との意見交換会を開催する。	7校の公立学校図書館司書との意見交換会を開催し、意見を伺い、調べ学習資料やYA世代向けの書籍購入の参考にした。	◎学校司書との意見交換会で共有した情報を図書館購入に反映している点が評価できる。
宮前	近隣施設や団体主催イベントへの参加やそれぞれの施設との情報共有およびネットワークの強化	地域の他施設との連携は地域図書館にとって不可欠なものであり、図書館で何ができるかということを今後も発信し続けていく。	○地域の情報を積極的に収集し、図書館の果たす役割について考え、実行している。
成田	学校司書との連携による、読書に繋がる事業の実施	図書館の魅力の発信を進めていく。	○中学生との連携を一般の来館者にも紹介している。
	公共機関の発掘と地域イベントの参加	可能な限り各種イベントへ参加していく。	○外部のさまざまな事業に出張し、新たな連携先を開拓している。
西荻	近隣小中学校との連携	近隣の小中学校と連携し、図書館見学や職場体験なども、率先して受け入れていく。	○地域の小・中学校との連携を継続して行っている。
	東京女子大学の協力による講演会の開催	図書館の希望するテーマも提示し、継続して講演会などを行えるよう働きかけていく。	○地域に大学がある立地を生かした連携を続けている。
	近隣関係機関との連携	引き続き、それぞれの良さを出した連携を行い、相互協力でお互いの事業を盛りあげていく。	○地域の関連施設と共同でさまざまな事業を行っている。
阿佐谷	近隣の4つの中学校との連携	中学生との活動状況を一般の方々に更にアピールする	◎近隣の中学校とさまざまな形で連携し、その様子を他の来館者にも見える形で紹介している点が評価できる。
	杉並区産業振興センターとの連携	更なる広報を行う。就労支援コーナーをさらにアピールし、別の形のイベントも実施して相乗効果を狙う。	○協定に基づいた事業を継続的にしている。
南荻窪	近隣小中学校との連携強化	今年度初めて、近隣小学校二校、中学校二校を対象に学校司書連絡会を行ったが、各校の意見調整に時間がかかった。	◎近隣の小・中学校と初めて学校司書連絡会を行った。
	区内施設との連携	学校司書連絡会の交流から小学校中学校の図書だより「環境講演会」の告知を掲載してもらうことにより、講演会への集客につながったと思われるが、継続的な取り組みにしていける必要がある。	○学校司書連絡会での情報共有を、図書館事業のPRに結びつけた。
下井草	学校司書との連絡会を実施し、近隣小中学校との連携を深め、YA事業の充実を図る。	学校司書連絡会でYA向けブックリストの共同制作を行う。他校の受け入れも検討する。	◎学校司書連絡会で、情報交換を行うだけでなく、共同でブックリストの作成をしている点が評価できる。
	区民センターまつりに「古本市」を出店し、地域との連携を深める。	今後も、地域との連携を深めていくとともに、図書館のPRをさらに進めていく。	○地域の施設のイベントに出店し、PRしている。
高井戸	出張おはなし会の範囲拡大	今年度はじめて連携した施設と継続できるようにアプローチをして、さらに範囲の拡大ができるように広報活動も行う。	○出張おはなし会の対象施設を拡大している。
	職場体験の積極的な受け入れ	引き続き積極的に受け入れをする。	○職場体験を積極的に受け入れている。
方南	地域子育てネットワークを中心とした近隣施設との良好な関係の維持と地域の安全確保	地域子育てネットワークの情報共有と地域の見守り体制の継続実施	◎子どもを見守るため地域の一員としての活動をしている点が評価できる。
	併設施設「むさしの保育園」との良好な関係維持と協働事業の実施	施設の基本的性質の違いに配慮した合同避難訓練の継続実施	○保育園との併設という立地から生ずる課題を積極的に解決しようとしている。
	月1回の、ケア24方南主催介護相談会の定着	気軽に立ち寄れる介護相談窓口としてケア24相談会の定着	△よい試みだが、利用に結びつくような工夫や、積極的な広報が必要である。
今川	学校図書室と連携した事業の実施	地域で子どもたちの読書活動を応援していくために学校図書館司書と連携し、生徒に読書や図書室に興味を示してもらえるような取組を進める。	○「子どもの読書応援団」の開催を継続的にしている。
	ゆうゆう今川館など地域の生涯学習施設や大学などの他機関と連携した事業の実施	様々な機関と積極的に協働し、幅広い世代に関わる行事や展示を企画したことで、地域に密着したサービスの提供や読書活動への支援の強化に繋がった。	◎ゆうゆう館との併設という立地を生かし、幅広い世代に関わる事業を実施している点が評価できる。

<資料3>利用者満足度調査

1 アンケート用紙の配布・回収数及び回答者の状況

(1) アンケートの配布・回収数

利用者の図書館サービスへの満足度とニーズを把握するため、原則5月（大規模改修に伴う休館を控えた中央図書館のみ平成31年1月）の3日間、中学生以上の図書館来館者を対象にカウンター及び館内でアンケート用紙を配布、回収した。

調査では、「図書館の職員について」ほか3分野12項目について、満足度を調査した。この評価では調査項目のうち主な6つの指標について、各図書館の取組状況を比較・分析し、評価の素材とした。結果については、49ページに掲載している。

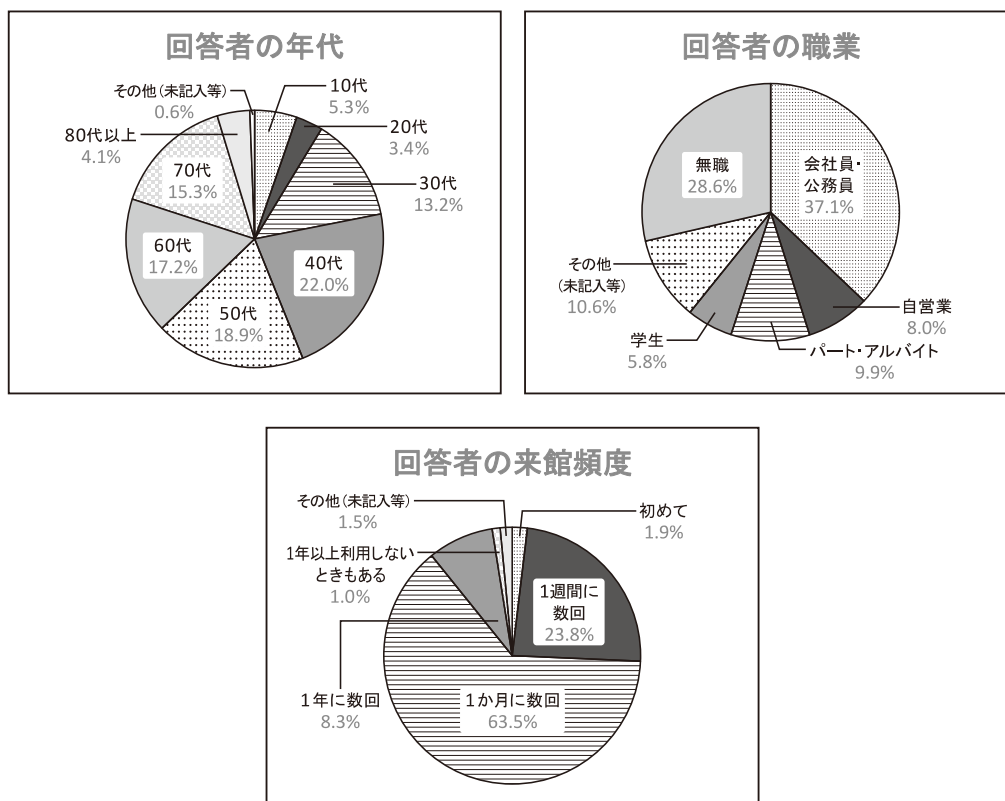
各図書館でのアンケート用紙の配布数は下表のとおりである。

	配布数	回収数	入館者数	回答率	入館者に対する割合
平成30年度 (平成31年1月及び 令和元年5月実施)	3,737枚	2,912枚	32,296人	77.9%	9.0%

(2) 回答者の状況

回答者の年代は、多い順から40代22.0%、50代18.9%、60代17.2%、70代15.3%となっているが、10代から30代の若年層は合計でも21.9%と少数になっている。職業は、会社員・公務員が37.1%、続いて無職が28.6%、パート・アルバイトが9.9%、その他（未記入等）が10.6%となっている。両者ともそれぞれの割合は、平成30年度とほぼ同じである。

また、来館頻度については、1か月に数回が63.5%、1週間に数回が23.8%となっており、合わせると全体の87.3%であった。この割合も前回とほぼ同じである。



2 アンケート調査項目

アンケート項目は、以下のとおりである。

①図書館の職員について	1. 職員の対応はいかがですか。(声がかかりやすいか、説明はわかりやすいかなど)
②図書館の本、新聞、雑誌等の資料について	1. 借りたい本は揃っていますか。
	2. 新聞、雑誌など、閲覧用の資料は揃っていますか。
	3. 書架の状態や資料の状態は満足できますか。
③図書館の施設について	1. 館内施設は利用しやすいですか。(表示のわかりやすさ、清潔さなど)
④図書館のサービスについて	1. 予約・リクエスト
	2. レファレンス(調べもの相談)
	3. 館内展示(資料展示・飾りつけなど)
	4. 行事(講演会・おはなし会など)
	5. 一般書・児童書・雑誌のリユース(再使用)提供
	6. OPAC(利用者用端末機)やWebからの図書等の検索
	7. パソコンの利用について(図書館内設置のインターネット閲覧用パソコン・持込みパソコンによる無線LANの利用など)
	8. 図書館ホームページや図書館発行のおたよりなどの情報発信・PR

3 主な指標の回答割合

利用者満足度調査の項目のうち、サービスに係る指標に「職員の対応」を加えた6つの主な指標について、「満足」と「やや満足」を合計した回答割合をまとめた。

利用者満足度調査結果による主な指標の回答割合

(単位:%)

図書館名	職員の対応	借りたい本	書架・資料の状態	レファレンス(調べもの相談)	館内展示(資料展示・飾りつけなど)	行事(講演会・お話し会など)
全館平均	97.4	74.1	87.6	42.0	76.7	40.9
中央館						
中央	94.2	78.4	84.2	44.9	78.3	45.1
直営館						
柿木	96.7	69.2	85.2	37.9	66.1	39.0
高円寺	94.8	62.3	81.7	42.9	79.5	37.7
西荻	96.9	68.1	85.3	37.0	75.3	33.2
直営館平均	96.1	66.5	84.1	39.3	73.6	36.6
指定管理館						
永福	96.2	72.0	85.2	37.9	68.8	34.2
宮前	98.7	81.9	89.6	44.2	81.3	44.2
成田	97.2	69.5	81.6	36.5	81.1	39.6
阿佐谷	96.7	70.6	87.1	42.9	75.6	39.9
高井戸	97.8	74.6	90.0	45.5	77.0	45.7
方南	99.6	82.7	93.1	46.8	84.8	49.5
指定管理館平均	97.7	75.2	87.8	42.3	78.1	42.2
業務委託館						
南荻窪	98.7	75.5	88.7	39.8	75.9	35.1
下井草	98.8	77.6	93.8	38.5	72.7	39.2
今川	99.4	81.1	93.9	51.1	80.3	49.7
業務委託館平均	99.0	78.1	92.1	43.1	76.3	41.3

※中央図書館(平成31年1月)と地域館12館(令和元年5月)が実施した利用者満足度調査の、主な指標の「満足」「やや満足」の回答割合を全館の平均値と比較し、平均を上回った項目を太字・網掛けで表示している。

4 アンケート調査項目に対する自由意見

(1) 自由意見記載枚数

アンケート回収数 2,912 枚に対して、自由意見記入欄に回答のあった枚数は 1,073 枚（回答率 36.8%）であった。1つの自由意見の中に複数の内容に関する記入があった場合は、それぞれ1件として計上した。このため、自由意見記入欄の回答枚数と意見数とは一致しない。

なお、寄せられた自由意見については各館の運営において参考とさせていただいている。

自由意見記入欄に回答のあった意見数

	内 訳	件数	割合	肯定的意見	要望等	その他		
自由意見記入欄に記入された意見数 1096件	設問に関連する意見	①職員に関すること	76	6.9%	45	30	1	
		②図書館の本、新聞、雑誌等の資料について	図書・視聴覚に関すること	191	17.4%	5	186	0
			新聞・雑誌に関すること	44	4.0%	1	43	0
			書架・資料の状態に関すること	34	3.1%	2	32	0
			②小計	269	24.5%	8	261	0
		③図書館の施設について	131	12.0%	7	121	3	
		④図書館のサービスについて	予約・リクエストに関すること	89	8.0%	15	74	0
			レファレンスに関すること	2	0.2%	1	1	0
			展示に関すること	8	0.7%	5	3	0
			行事（講演会等）に関すること	36	3.3%	10	25	1
	リユースに関すること		5	0.5%	0	5	0	
	OPAC・Webでの検索に関すること		68	6.2%	3	65	0	
	パソコン利用に関すること		26	2.4%	0	26	0	
	情報発信・PRに関すること		5	0.5%	1	4	0	
	④小計	239	21.8%					
	①～④小計	715	65.2%					
	設問に関連していない意見	⑤図書館運営に関すること	18	1.6%				
		⑥図書館利用に関すること	31	2.8%				
		⑦図書館利用者に関すること	59	5.4%				
		⑧図書館システムに関すること	25	2.3%				
⑨感謝		173	15.9%					
⑩アンケートに関すること		6	0.5%					
⑪その他		69	6.3%					
⑤～⑪小計		381	34.8%					
自由意見記入欄 合計		1,096	100.0%					

○アンケート用紙

〇〇図書館利用者満足度調査

このアンケート(利用者満足度調査)は、より良い図書館サービスの提供や図書館運営を行うため、皆様のご意見を反映させるためのものです。ご協力をお願いします。

○以下の項目は、該当する番号を「○」で囲んでください。

年代	① 10代 ② 20代 ③ 30代 ④ 40代 ⑤ 50代 ⑥ 60代 ⑦ 70代 ⑧ 80代以上
来館頻度	① 初めて ② 1週間に数回 ③ 1か月に数回 ④ 1年に数回 ⑤ 1年以上利用しない時もある
職業	① 会社員・公務員 ② 自営業 ③ パート・アルバイト ④ 学生 ⑤ その他 ⑥ 無職

① 図書館の職員について

項目	満足度 (該当するものを「○」で囲んでください)			
1 職員の対応はいかがですか。(声がかかりやすいか、説明はわかりやすいかなど)	満足	やや満足	やや不満	不満

② 図書館の本、新聞、雑誌等の資料について

項目	満足度 (該当するものを「○」で囲んでください)			
1 借りたい本は、揃っていますか。	満足	やや満足	やや不満	不満
2 新聞、雑誌など、閲覧用の資料は揃っていますか。	満足	やや満足	やや不満	不満
3 書架の状態や資料の状態は満足できますか。	満足	やや満足	やや不満	不満

③ 図書館の施設について

項目	満足度 (該当するものを「○」で囲んでください)			
1 館内施設は利用しやすいですか(表示のわかりやすさ、清潔さなど)	満足	やや満足	やや不満	不満

④ 図書館のサービスについて

杉並区立図書館で実施しているサービスについてお訊ねします。次の1から8の各サービスについて、それぞれ該当する箇所に「○」を1つ記入してください。

項目	該当する箇所に「○」を1つ記入してください						
1 予約・リクエスト	満足	やや満足	やや不満	不満	利用したことはない	知らなかった	
2 レファレンス(調べもの相談)	満足	やや満足	やや不満	不満	利用したことはない	知らなかった	
3 館内展示(資料展示・飾りつけなど)	満足	やや満足	やや不満	不満	利用したことはない	知らなかった	
4 行事(講演会・おはなし会など)	満足	やや満足	やや不満	不満	利用したことはない	知らなかった	
5 一般書・児童書・雑誌のリユース(再使用)提供	満足	やや満足	やや不満	不満	利用したことはない	知らなかった	
6 OPAC(利用者用端末機)やWebからの図書等の検索	満足	やや満足	やや不満	不満	利用したことはない	知らなかった	
7 パソコン利用について(図書館内設置のインターネット閲覧用パソコン・持込みパソコンによる無線LANの利用など)	満足	やや満足	やや不満	不満	利用したことはない	知らなかった	
8 図書館ホームページや図書館発行のおたよりなどの情報発信・PR	満足	やや満足	やや不満	不満	利用したことはない	知らなかった	

●その他お気づきのことやご意見がございましたら、以下にご記入ください。

【自由意見記入欄】

ご協力ありがとうございました。

＜資料4＞ 杉並区立図書館サービス基本方針

平成 24 年度に、これからの図書館サービスの課題に対応していくための基本方針を策定しました。今後は、この基本方針に沿ってサービスの充実に努めていきます。

図書館サービス基本方針

I 図書館サービス基本方針の策定について

1 策定の背景・趣旨

今、図書館を取り巻く状況は、電子書籍や音楽配信サービスの普及など情報化の急激な進展、団塊世代の本格的な地域還流、若者世代の活字離れ、地域における知的活動意欲の高まりなど大きく変化してきています。図書館には、これらの変化への的確な対応が求められています。

また、杉並区では今年度、全小中学校に学校司書を配置しましたが、これまで以上に「調べ学習」への対応の充実など、図書館と学校との連携・協力を図ることが重要となっています。

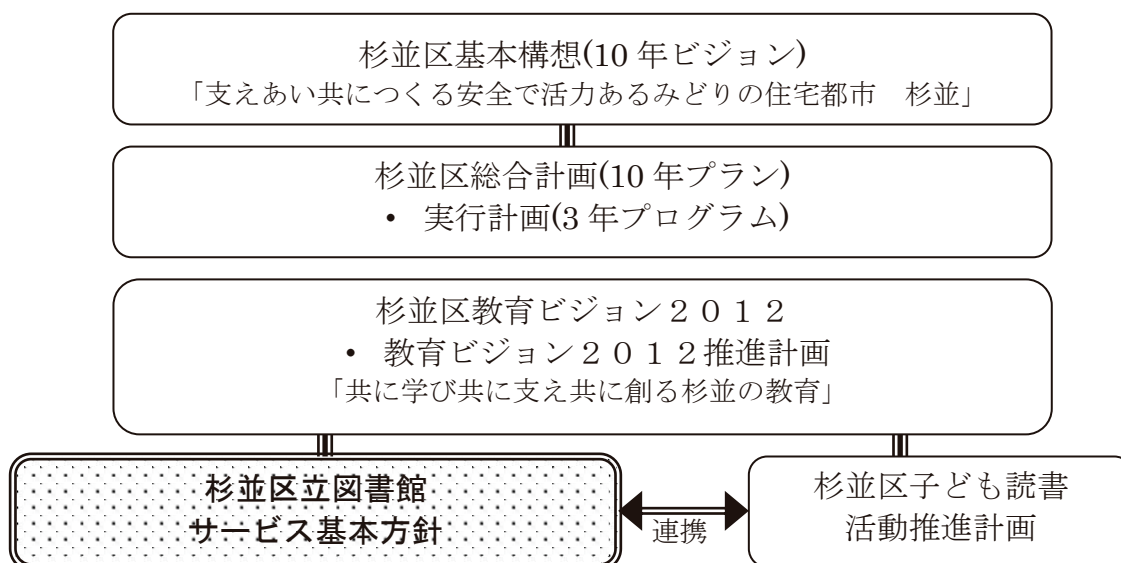
杉並区では、これまで「区民の書齋」である図書館として、全国トップクラスの 230 万冊におよぶ蔵書の充実をはじめ、他自治体に先駆けてのブックスタート事業や「子ども読書活動推進計画」の策定・推進に取り組んできました。また、運営面では、図書館協議会への公募区民の参画や、指定管理者制度の導入、経営評価の実施など、時代の流れに応じた取組を進めてきました。

しかし、今後、時代のニーズを的確に反映し図書館サービスの向上を図るためには、新たに中長期的視点から杉並区の目指すべき図書館像を明らかにする必要があるとの認識から、このたび「杉並区立図書館サービス基本方針」を策定しました。

この基本方針は、学識経験者・区民・関係団体代表者等で構成された図書館協議会に諮り、6 回にわたる幅広く熱心な議論を経てまとめられた原案をもとに策定したものであり、今後 10 年間の図書館の羅針盤として、望ましい図書館サービスのあり方と、その実現に向けての取組の方向性を明らかにするものです。

2 位置付け

「杉並区立図書館サービス基本方針」は、杉並区基本構想(10年ビジョン)、杉並区総合計画(10年プラン)・実行計画(3年プログラム)、杉並区教育ビジョン2012・教育ビジョン2012推進計画を踏まえるとともに、「子ども読書活動推進計画」との連携を図り策定しています。



II 10年後の図書館像

図書館は進化する

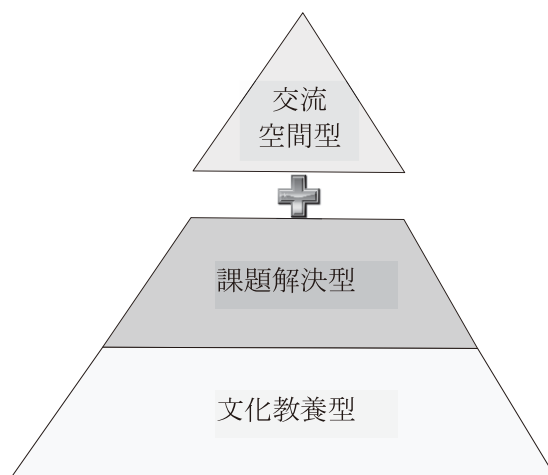
～学びの場・知の共同体・楽しい交流空間へ～

これまで図書館は、資料を収集し、その資料が生涯学習や調査研究、趣味・娯楽などの様々な目的に活用される、いわゆる文化教養型施設としての役割を担ってきました。近年は、さらに個人や地域における課題解決に役立つための役割が重視されるようになり、レファレンスサービス※の充実やデータベースの活用などの取組を進めてきました。

今後はさらに、様々な区民が気軽に集い交流するとともに、各々の能力や関心に応じて、互いに連携・協力しあう交流空間としての役割が求められています。

※情報を求める人に必要な資料の調べ方を案内すること、必要な資料・情報を提供すること

このような時代の流れや図書館の進化を踏まえ、これからの10年に臨む基本的姿勢として、次のような図書館像を描いています。



10年後の杉並区立図書館像

個の学びの場であり、自己実現を支援する役割が果たされている

個人が学んだ成果を仲間や他の人々と共有することや、他の生涯学習・社会教育施設、小・中学校との連携・協働などにより、「知の共同体」として新たな価値が創造されている

人と情報・人と人がつながり、図書館で働く人々と、ボランティア、利用者などがコミュニケーションを深め、集い、交流する場となっている

III 3つの視点と取組の方向

1 「学びの場」としての図書館 ～学び・自己実現を支援します～

図書館は、区民の皆さんの学びや自己実現を支援する場であり、知りたい情報にいつでもアクセスできる「地域の学びの場」としての役割を担っていきます。

【10年後の姿】

- ニーズに応じた多様な資料が揃い、誰もが利用しやすい環境が整っています。
- 情報通信技術を活用し、誰もがどこからでも図書館の資料を活用しています。
- 図書館への来館が困難な方でも、貸出などのサービスを受けることができるようになっています。

【取組の方向】

- ・図書館には約230万冊もの膨大な資料があります。また、誰でも使えるインターネット環境や有料データベースなど、図書資料のみならず多様な情報へのアクセス手段が用意されています。図書館の基本的な機能としては、これからも「知りたいことが図書館に行けばわかる」という情報集積の拠点として、資料を収集し、利用者が活用しやすいように整理したうえで提供していきます。

- ・もとより、図書館に、趣味や娯楽のための本や映画など、いわゆるエンターテインメントに関する資料を求めてくる人も多くいます。特に、団塊世代が 65 歳を迎え、本格的に地域に戻ってきつつあり、図書館を活用して新たな活動に取り組んだり、余暇を楽しんだりする機会が増えてくることが考えられます。こうした人たちに、図書館の良さを理解していただくためにも、資料の充実や適切な情報収集に努めていきます。
- ・急速な情報通信技術の進展に対応して、音楽配信サービスや電子書籍の導入、ソーシャル・ネットワーキング・サービス^{*1}等の活用の検討など、電子図書館としての機能を充実させていきます。これにより、時間や場所に拘束されずに図書館が持つ情報と情報ネットワークを利用することが可能となり、利便性の向上が図られます。一方で、電子情報へのアクセスが困難ないわゆる IT 弱者は、現在入手できる情報量が圧倒的に少なくなっています。そうした区民のためにも、図書館という場を活用して、情報リテラシー^{*2}の向上に取り組みます。

※1 インターネットを使って、特定の関心をもつ人同士が出会うチャンスをつくり、情報交換ができるようにするサービスの総称。略称 SNS

※2 情報機器を利用して、膨大な情報の中から必要な情報を抜き出し、活用する能力のこと

- ・図書館への来館が困難な方であっても図書館サービスを受けることができるよう、病院・施設への団体貸出や宅配サービスなど、様々な方法を検討していきます。

2 「知の共同体」としての図書館 ～情報の共有と活用を進めます～

区民の皆さんが自ら学び、新たに身に付けた知識や技能を、図書館を媒介にして共有し、活用していくことで、地域社会に還元できるような環境を整えていきます。

【10年後の姿】

- 個人の学びの成果を、仲間や他の利用者と共有する場＝「知の共同体」として、図書館が機能しています。
- 区内の様々な団体との協働により、図書館で多様な事業が行われています。
- 杉並にゆかりのある人物の本や、杉並に関する歴史や地誌、地場産業や固有の文化など、「杉並」に関する資料が蓄積され、多くの人に利用されています。

【取組の方向】

- ・図書館には多くの情報があり、それを求めてやってきた人たちが、自らの課題解決や自己実現のために活用しています。こうした人たちの学習成果や、地域の人たちが持っている技能・アイデア・能力などを発揮できる環境を「知のインフラ(基盤)」として蓄積・共有化し、地域社会に還元できるようにしていきます。
- ・外部の人材や専門家を活用した講座や講演会の実施を通じて、受講者のスキルアップを支援していくとともに、そこでの学びの成果を地域社会に還元していくために、受講者同士の情報共有の場を提供するなど、新たな図書館の活用を考えていきます。
- ・多くの区民が利用する図書館には、資料だけではなく、それぞれの区民や団体が持つ多くの知識や経験が集まっています。図書館は、こうした知識などを若い世代に伝えていき、その世代がやがて大人になったときに、さらに若い世代に伝えていくような、「知の循環」の中核として、また、就学前教育から学校教育、生涯学習への切れ目ない連携の中心となる施設としての役割を担っていきます。
- ・杉並に関する文化的資料の蓄積は、公立図書館だからこそ取り組まなければならない課題です。こうした情報の収集も、地域の人々の協力なくしては成り立ちません。図書館の使命として、歴史的資料のみならず、現在、そして将来的に必要であろうと考えられる資料を、地域の人々と一緒になって、積極的に保存・伝承していきます。

3 「楽しい交流空間」としての図書館 ～区民と共に成長します～

図書館は、誰もが気軽に集え、交流できる場として、区民とともに成長・進化し続けていきます。

【10年後の姿】

- 多くの区民が、図書館の様々な取組や活動に連携・協力し、「区民が主体的に参画する」図書館が実現しています。
- 区民等との積極的な協働により、障害者や高齢者・子ども向けの多様なサービスが充実しています。
- 従来の「静かで落ち着く空間」としての図書館を基本としつつ、「明るく楽しく人が集う空間」としても図書館が活用されています。
- 施設・設備がユニバーサルデザイン[※]化され、誰もが気軽に図書館を訪れることができるようになっていきます。

※年齢や障害の有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人利用可能であるようにデザインすること

【取組の方向】

- ・図書館には、多くの人を訪れています。平成23年度の区民意向調査では、約4割の区民が、年に1回以上図書館を利用していると答えています。
このように多くの区民に利用されている図書館は、積極的に利用者の声に耳を傾けるとともに、図書館のモニターを募ってその意見を運営に反映させ、協力を受け、さらには一緒になって図書館をより良くしていくことにより、「区民が楽しみ、区民が主体的に参画する図書館」に変わっていく必要があります。全ての区民が「図書館に行ってみよう」と思えるような魅力的なサービスを提供し、「図書館に行けば何かある」、「図書館に行けば抱えている問題が解決できる」と思える、知的好奇心をくすぐるような楽しい空間を創っていきます。
- ・講演会や講座、ワークショップなどを開催することにより、区民の興味・関心の幅を広げる機会や発表の場を提供する中で、同じ興味や関心を持った人たちの交流の場としての図書館の役割を広げていきます。
- ・これまでも図書館は、ボランティアの協力を得て、障害者サービスや子どもたちへの読み聞かせなど、様々な事業を行ってきました。こうした取組は、今後もさらに継続・発展させていく必要があります。そのためには、今後もボランティアとの協働による多様なサービスの提供と、それを支える人材育成が欠かせないものとなっています。高齢者や障害者のサービスを充実させていくためにも、ボランティアのみならず様々な面で図書館を支援してくれる人たちとの協働を進めていきます。
- ・幅広い層の区民が気軽に集え、交流できる場になるためには、「集い、活動したくなる空間」になる必要があります。そのため、静かで落ち着いた雰囲気だけにとどまらず、会話を楽しめたり飲食ができたりするスペースの確保など、明るく楽しい雰囲気も作っていきます。
- ・誰もが利用しやすい図書館となるためには、施設・設備のユニバーサルデザイン化や省エネルギー化など、設備の充実も欠かせません。誰もが使いやすい図書館になるよう、施設・設備を充実していきます。

IV 取組推進のための基盤整備

1 関係機関とのコラボレーション（協働）

図書館は、生涯学習施設に位置付けられていますが、区内には他にも社会教育センター、郷土博物館、科学館など、多様な社会教育・生涯学習施設があり、こうした施設との連携も欠かせません。

また、区内大学図書館との連携も重要なものとなっています。各種資料やプログラム、PRの連携など、積極的にコラボレーションすることにより、さらに高いレベルのサービスを提供していきます。

また、平成24年度には、区内全ての小・中学校に学校司書が配置されました。学校司書は、小・中学校の図書館での蔵書管理や、児童・生徒へのサービス、教員への授業支援などをする専門スタッフで、区立図書館などの関係機関と学校とをつなぐ存在としての役割も期待されています。図書館は、積極的に学校図書館を支援するとともに、学校司書との連携により、学校教育における読書活動への支援を強化していきます。

こうした連携を重視した取組を進めることにより、将来的には、基本構想や教育ビジョンにも掲げる、「生涯にわたる切れ目のない支援」の実現を目指します。

2 専門家の育成・活用

区民のニーズに応えるためには、図書館運営に関わる全ての職員がそれぞれの担当分野において「専門家」となることが必要です。

まず、司書の資格を持つ職員のレファレンス能力を向上させることにより、利用者のニーズに的確に応えていきます。また、図書館にとっては、どのような資料が用意されているかが、とても重要です。そのため、職員のスキルアップに取り組み、選書能力の強化を図ります。

さらに、施設管理や情報化、サービス全般についても、それぞれの担当者がプロフェッショナルとしての自分の役割を認識した上で、より良い図書館運営のための取組を進めていきます。

また、図書館同士がお互いのサービス内容を理解し、他の図書館が実施する良いサービスを見習うなど、図書館全体としてより良いサービスが提供できるような取組を進めていきます。

さらに、外部の学識経験者など専門職の協力により、その知識・経験や技術をサービスの拡大に活用していきます。

3 積極的な広報・PR活動

図書館は多くの区民に利用されていますが、それでもまだ5割以上の区民が図書館を利用したことがないという状況にあります。「本は自分で買う」や「近くに図書館が無い(場所を知らない)」という声があるほか、様々な催しや企画展を行っているにもかかわらず、図書館からの発信や働きかけが足りず、行事などに関する情報があまり知られていない、などの指摘も受けます。

本来の図書館の機能や、将来像についてはこれまでも述べてきましたが、それらを区民と共有し、図書館の活性化を図るためには広報活動も重要です。これまでも「広報すぎなみ」や区の公式ホームページ、図書館ホームページなどで広く広報活動を行ってきましたが、これからは、さらに一歩進んで、利用する価値のある施設だということを理解していただけるように、未利用者への働きかけなども含めて、積極的な情報発信を継続的に行っていきます。

V 目標の実現に向けて

今後、図書館は、図書館サービス基本方針に掲げる図書館像の実現を図るため、具体的な取組事業について検討するとともに、これらをもとに各年度における事業の進行状況や到達度について、新たな仕組みによる図書館経営評価を行うことにより、PDCAサイクルに則った計画的な事業の推進を図ります。

また、図書館の持つ機能や可能性をより発揮していくためには、行政や事業者だけの力では十分ではありません。「学びの場・知の共同体・楽しい交流空間」を実現する図書館の担い手として、図書館の利用者をはじめ図書館を利用したことがない方々を含めて、より多くの区民の方に主体的に参加していただくことにより、目標の実現を図っていきます。

○杉並区立図書館の概要(図書館要覧より抜粋)

図書館名	開設年月日	延床面積	施設構造	蔵書冊数 (平成31年3月末現在)
中央※	昭和57年10月5日	4,397.14 m ²	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上2階	710,006 冊 <small>(馬橋ふれあい図書室分 4,592 冊含む)</small>
永福	昭和40年8月1日	1,190.85 m ²	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上2階	109,300 冊
柿木	昭和40年8月1日	1,162.61 m ²	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上2階	111,657 冊
高円寺	昭和42年11月1日	1,895.28 m ²	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上3階	120,796 冊
宮前	昭和47年11月1日	1,974.02 m ²	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上3階	126,483 冊
成田	昭和60年9月3日	851.38 m ²	鉄筋コンクリート造 地上2階	98,659 冊
西荻	平成2年5月5日	1,195.38 m ²	鉄筋コンクリート造 地上2階	135,698 冊
阿佐谷	平成5年2月11日	1,086.67 m ²	鉄筋コンクリート造 地上2階	128,029 冊
南荻窪	平成5年11月23日	1,061.24 m ²	鉄筋コンクリート造 地上2階	140,190 冊
下井草	平成9年5月1日	1,104.30 m ²	鉄筋コンクリート造 地上2階	121,140 冊
高井戸	平成10年5月1日	1,622.89 m ²	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上2階	126,413 冊
方南	平成17年11月3日	815.16 m ²	鉄筋コンクリート造 地上2階 (保育園併設)	111,090 冊
今川	平成19年12月16日	1,083.32 m ²	鉄筋コンクリート造 地上2階 (ゆうゆう館併設)	125,419 冊

※ 中央図書館は大規模改修工事のため、平成31年4月1日から令和2年8月31日(予定)まで休館中です。

令和元年度
杉並区立図書館運営状況報告書

登録印刷物番号

31-0093

令和2年1月発行

編集・発行 杉並区教育委員会中央図書館

〒167-0051 杉並区堀ノ内2丁目5番26号

済美教育センター内

中央図書館仮設事務所

電話 03-6304-9010

* 杉並区及び杉並区立図書館の各ホームページでご覧になれます。

杉並区ホームページ <https://www.city.suginami.tokyo.jp>

杉並区立図書館ホームページ <https://www.library.city.suginami.tokyo.jp>